中條流産科全書　安永七年刊　戸田旭山撰

禁無断出

中條流産科全書

戸田旭山先生撰

中條流産科全書

攝陽　書舗　定榮堂梓

序

夫婦人有経産也。擧世是為難。尤矣。故自古醫有十三科。而大科為其最。亦別設婦人科以列于其數。雖均之可任大科哉。其所以別之者。以有夫経産故也。竊以雖常産

難澁日久則母子軀命迫於旦夕
當是之時有良醫則一治而函全
矣豈大科止救一人比哉況又至
若王氏腋産樊氏額産之類其無
素者不能治也是乃在十三科中
其任莫重焉其功莫大焉恭惟本

邦泰平之化盛行幾乎二百年矣
武露布文露沈百家衆技林林狀
起其中有中條氏在焉以善治産
難鳴固非虚名也今也其徒數十
百人分所海内而救其難者指不
勝屈一日書肆酔墨斎袖一帙来

謂予曰。吾嘗梓村山氏所撰中條
産書小冊大行于世。今復欲壽梓
其後扁增補。希公校正之。予於是
喜其傳不朽。校正之家藏書。間亦
傍加私論以發揮之。蓋其為書。亦
必依古人方論。皆書一家経驗。以

鄉語。是以大方之家多不信也。雖
肰予屢試之。極効。則是書有大補
於濟世者可知已矣。是配之十三
科中之書。又何耻之有。故今添以
序而還之云。

皇和寶暦改元年

旭山戸田齋誌

聖賢和工

中條流産書跋

右中條流産前後書○余年來臨病施治無不應○尤有濟民之功○故鋟梓以作一歩之助矣○

寛文戊申晩春中澣

村山林益撰

中條流産科全書目録

初ノ一　本味薬方ノ事　一丁
同二　同加減法ノ事　同丁ウ
同三　姙娠禁物ノ事　二丁
同四　産ノ頃ヲ知ル事　同丁
同五　生産月数ノ事　同丁ウ
同六　悪阻ノ事　三丁

同七　孕ムカ不孕カヲ知ル脈ノ事　同丁ウ
同八　男女ヲ知ル脈ノ事 付双子ヲ知ル　同丁ウ
同九　血ヲ上ニ病ム下ニ病ムト云事　同丁ウ
同十　背バラミノ事　四丁
同十一　胎内ノ子居所ヲ昏ュル事　同丁
同十二　火ニアタル事　同丁ウ
同十三　水ヲアミル事　同丁ウ

同十四　産前脈ノ事　五丁
同十五　水腫ノ事　同丁

産前方目録

一　不食ヲ煩フ事　六丁
二　食違ニテ煩フ事　同丁ウ
三　目ノ上重ク時々大息ヲツキ煩フ事　七丁
四　中程ヨリ帯ヲトク事　同丁

五　熱ヲ煩フ事　一同丁ウ
六　風ヲヒキ熱アル事　同丁ウ
七　大熱氣ヲ煩フ事　八丁
八　傷寒ヲ煩フ事　付娠振禁忌藥品ノ事　同丁
九　三四ケ月ニテ古血煩フ事　九丁
十　子留リテ一月二月又ハ三四月ニテ流ル事　同丁ウ
十一　虫出テ煩フ事　同丁ウ
十二　三四ケ月ニテ母ノ喉ヨリ虫多ク出ル事　十丁
十三　味噌汁ヲ嫌フ事　同丁ウ
十四　咽渇ク事　同丁ウ
十五　腹痛ヲ煩フ事　同丁ウ
十六　吐逆飯逆出ル事　同丁ウ
十七　咳逆ノ事　十一丁
十八　腹中ヲ煩フ事　同丁

十九 痢病ヲ煩フ事 同丁
廿 冷タル物ヲ食シ熱氣アル事 同丁ウ
廿一 霍乱ノ事 同丁ウ
廿二 眩暈ノ事 同丁ウ
廿三 頭痛ノ事 十二丁
廿四 胸氣ノ事 同丁
廿五 痞病ノ事 同丁ウ
廿六 小便渋リ或ハ不通事 同丁
廿七 大便結スル事 同丁ウ
廿八 脫肛出テ不入事 同丁ウ
廿九 足冷ヘ痛ミ煩フ事 同丁ウ
三十 母ノ身大ニフクレ惣身ニ細ナル物出ル事 十三丁
卅一 母ヨレト云煩ヒノ事 同丁
卅二 舌不動痛ム 同丁ウ

卅三	惣身スクミ煩フ事	同丁ウ
卅四	惣身冷ヘ腹中熱シ煩フ事	十四丁
卅五	惣身骨痛ミ物ニ狂フ事	同丁
卅六	腫風ノ事	同丁ウ
卅七	腰腫レ北日モ煩フ事	十五丁
卅八	腫氣サシ煩フ事	同丁
卅九	毋ノ腭ヨリ腫物出ル事	同丁ウ
四十	同腭ヨリ膿イヅル事	同丁ウ
四一	トワタリ腫レ煩フ事	同丁ウ
四二	七八ケ月ニテ血ホル事	十六丁
四三	大血ト云テ滝ノ如ク血走ル事	同丁ウ
四四	血止リテ物ニ狂フ事	十七丁
四五	血不時ニ下ルヲ止テ熱出ル事	同丁
四六	目口鼻ヨリ血出ル事	同丁

四七 吐血スル事 同丁ウ
四八 産ニ向ヒ喉ヨリ血出テ又痰血ノ事 同丁ウ
四九 血乱レテ譫語レ歯ヲカミ悪寒ヲ発熱ノ事 十八丁
五十 未満月子胎内ニ死レテ目口ヨリ血出煩フ事 同丁
五一 胎内ニテ子死スル事 同丁ウ
五二 死胎ノ事 十九丁
五三 母病テ子胎内ニ死レ手足出ス事 同丁

五四 子ヲ下レ頻テ又留リタル事 同丁ウ
五五 子下リタル跡煩フ事 同丁ウ
五六 母反張ツキ煩フ事 廿丁
五七 足ノ裏腫レ煩フ事 同丁
五八 氣労レ眠ル事 同丁ウ
五九 心モナク五日モ十日モ眠ル事 同丁ウ
六十 氣労レタル姙婦ノ事 廿一丁

六一 目ノ見ヘヌ事 同丁
六二 氣ヨワキ者ノ事 同丁
六三 髪ヌケル事 同丁ウ
六四 薄黒キ子バキ物ヲサイく吐ク事 同丁ウ
六五 寝ルト其マヽ夢ヲ見ル事 同丁ウ
六六 子乳口ヲ離ス事 廿二丁
六七 子母ノ膽ヘ喰付ク事 同丁
六八 同胆ヘ逆上ル事 同丁
六九 子古血ニせカレ胸ヘ上リ不食スル事 同丁ウ
七十 悪血ニテ熱氣アリ不食ノ事 同丁ウ
七一 孕婦月水ヲ如常ミル事 廿三丁
七二 母ノ乳滝ノ如ク出ル事 同丁
七三 子宮腫ル事 同丁ウ
七四 子宮出テ下ル事 廿四丁

七五　母無煩惣身ヨリ水ノ如ナル物出ル事　同丁
七六　子宮ヨリ白キモノ出ル事　同丁ウ
七七　母ノ手ノ指サキ痛ム事　同丁ウ
七八　胎内ノ子臍ノ緒ヲ首ニ巻ノ事　廿五丁
七九　嬰胎カ血塊カ不知事　同丁
八十　血塊ヲ解ク事　同丁
八一　血塊下リタル時ノ事　廿六丁
八二　石子ト云物ヲ孕ム事　同丁ウ
八三　子宮ヨリ天目程ノ物出ル事　廿七丁ウ
八四　先走ト云テ十日モ廿日モ白キ物出ル事　同丁ウ
八五　十日十五日前ヨリ血下ル事　廿八丁
八六　同水コボルヽ事　同丁
八七　同破水下ル事　同丁ウ
八八　度々氣ヲ取リ失フ事　同丁ウ

八九　母ノ股ヨリ下ニ熱氣アリ煩フ事　同丁ウ
九十　月ヲ持コス事　同丁
九一　胎内ニテ子アガク事　三十丁
九二　胎内ニテ子啼モダユル事　同丁
九三　胎動ノ事　同丁
九四　母ノ喉ヘ子手ヲ出ス事　同丁ウ
九五　産近付キ重シ掛ルト云事　同丁

九六　帶解カゲンノ事　卅一丁
九七　産ニ臨ミ二三日四五日前ニ血下ル事　同丁
九八　後ノ物子ヨリ先ニ下ルト云事　同丁ウ
九九　子宮先ヘ出ル事　卅二丁
百　産門ヨリ挽茶ノヤウナル物出ル事　同丁
百一　産前イゲミ有テ産門カユガル事　同丁
百二　産ニ向イ身持ヤウノ事　同丁

百三 腹ツヨク痛ム事 同丁ウ
百四 常ノイゲミノ事 同丁ウ
百五 イゲミ有テ血度々下ル事 同丁ウ
百六 産ニノゾミ小便出ル事 同丁ウ
百七 難産ニイゲミ止メ度時ノ事 卅三丁
百八 ハレリノ後産門ニヌル薬ノ事 同丁
百九 産ニノゾミイゲムコト不成事 同丁ウ

百十 産ニ臨母ノ胸ヘ子上リ生レ兼ル事 卅四丁
百十一 産ニ臨物ニクルイ煩フ事 同丁
百十二 産ニ臨子返リテカ子ル事 同丁ウ
百十三 子宮塞リ生レカ子ル事 同丁ウ
百十四 子宮不開子頭ヲ出シ生レカ子ル事 卅五丁
百十五 母ノ股ヘ子足ヲ入レ生レカ子ル事 同丁
百十六 産ニ臨小腹張リ子返リテカ子ル事 同丁ウ

百十七 難産ニモ産門不破茶ノ事 卅六丁
百十八 産ニ向イ腹下リ振フ事 同丁
百十九 産ニ向ヒ夢ノ如ク驚キ怖ルヽ事 同丁
百廿 産ニ向イ大ニ振フ事 同丁ウ
百廿一 産前ニ目ノ上重ク息早ク汗スル事 卅七丁
百廿二 産ニ向イ腰不起事 同下
百廿三 産ニ向イ吐血痰血ノ事 同丁ウ

百廿四 同咳血ノ事 同丁ウ
百廿五 産ニ向喉ヨリ虫沢山ニ出ル事 卅八丁
百廿六 産ニ向産門不開時吹茶ノ事 同丁
百廿七 早生茶ノ事 同丁
百廿八 催生茶方ノ事 附催生茶ヲ用ユル時ノ刻ノ事 卅九丁
百廿九 産ニ臨呵欠シ頻リニ腹痛ム事 四十丁
百卅 産ニ臨ミ子湯ト云物下ル事 同下

百卅一　産ヲ持コレ度時ノ事　四十一丁
百卅二　双子ニテ子宮ニ向イ生レ　同丁
百卅三　逆子横子ノ事　四十二丁
百卅四　子足ヲ出シ生レカ子ル事　同丁
百卅五　同片足ヲ出ス事　同丁ウ
百卅六　同内茎ノ事　同丁ウ
百卅七　逆子腰ヨリ下出ル事　四十三丁
百卅八　横産片手出ス事
百卅九　同両手出ス事
百四十　同吐茎ノ事
百四一　同内茎ノ事
百四二　子生レ兼ル事
百四三　産前アシキ茎ヲ呑腹大クナリ子不生事
百四四　子返リハレテ子生レザル事

百四五　難産ノ加減ト云事
百四六　破水皆下リアト乾キ子生レザル事
百四七　古血ニ廿カレ子生レカネル事
百四八　胞衣不下リ事
百四九　後ノ物不下日久シキ時ノ事　付腰温メヤウノ事
百五十　後ノ物不滞様ノ加減ノ事
百五一　後産子宮ニ入ル事　付母コトノ外放屁事

百五二　後産不下時ノ脉ノ事　付双子ニテ一人腹ニノコル事
百五三　後産不下時ノ秘方ノ事

○産後方目錄

一　産後養生ノ事　付脉ノ事　五十一丁
二　産後血ヲ定ル事　五十二丁
三　同酢ヲカバスル事　同丁
四　同跡腹痛ム事　同丁ウ

五　半産ノ後大ニ腹痛ム事　同丁ウ
六　本産半産ニ大ニムツカレキ時灸スル事　五十三丁
七　産後氣ツケノ事　五十四丁
八　子ヲウミ古血上リ血狂ヒスル事　同丁ウ
九　大イニ血走ル事　五十五丁
十　本産半産後ニ物狂ハレキ事　五十六丁
十一　血乱レテ悪寒発熱スル事　同丁
十二　血止リ過テ熱氣サレ又氣違フ事　同丁
十三　産後熱氣ヲ煩フ事　同丁ウ
十四　産後目マイノ事　五十七丁
十五　目旋リ氣違フ事　同丁
十六　目旋リ人ヲ不見知事　同丁
十七　狂氣シテ汗ヲカク事　同丁ウ
十八　産後反張ノ事　同丁ウ

十九 産後振フ事 五十八丁
廿 胸噪メ氣上ル事 五十九丁
廿一 眩暈シテ振イ付歯ヲ喰イシメ発熱ノ事 同丁
廿二 頭痛煩フ事 同丁
廿三 頭痛血ノ道ノ事 同丁ウ
廿四 産後二子宮出ル事 六十丁
廿五 産門ヨリ出ル事 六十二丁
廿六 尻ノ出ル事 同丁ウ
廿七 尻痛ム事 同丁ウ
廿八 子宮ヒカザル事 同丁ウ
廿九 子宮ヨリ天目程ノ物出ル事 同丁ウ
卅 胞衣子宮へ入ル事 付母放屁ノ事 六十二丁
卅一 陰戸痛ム事 同丁
卅二 子ヲ生ミ待合破レ陰門肛門一ツニナル事 同丁ウ

卅三　目見ヘザル事　六十四丁
卅四　耳ノ不聞事　同丁ウ
卅五　夢ヲカサ子ノ見驚ク事　同丁ウ
卅六　寢汗ノ事　同丁ウ
卅七　子ヲ生ミ後ノ物ニテモナク腹痛ミ煩事　六十五丁
付　双子ニテ一人腹ニノコル事
卅八　鼻血又ハ喉ヨリ血出ル事　同丁ウ

卅九　大便ニ血ヲ下ス事　六十六丁
四十　吐血ノ事　同丁
四一　吐逆ノ事　同丁ウ
四二　咽渇キ湯水大ニ呑タガル事　同丁ウ
四三　下冷タル故カ或ハ水ナド呑ミ古血堅リ虫ナドノヤウニ煩フ事　六十七丁
四四　古血不下事　同丁ウ

四五 古血カタマリ身ノ内(ウチ)天目程(モクホド)ニ腫(ハレ)ル事 同丁ウ
四六 大便結(クッ)スル事 六十八丁
四七 小便渋(シブ)ル事 同丁ウ
四八 小便頻(ヒンサク)数ノ事 同丁ウ
四九 小便不覚通(ツウ)ズル事 同丁ウ
五十 産後咳嗽(ガイサウ)ノ事 六十九丁
五一 早(ハヤ)メニ物(モノ)ヲ云(イ)ヒ色赤(アカ)ク汗(アセ)出ル事 六十九丁
五二 物(モノ)云(イ)フナラヌ煩(ワヅラヒ)ノ事 六十九丁ウ
五三 不食(フシヨク)ノ事 同丁ウ
五四 噦(ヤクリ)スル事 同丁ウ
五五 泄瀉(サツシヤリビヤウ)痢病ノ事 同丁ウ
五六 腹下(ハラクダ)ル事 七十丁
五七 薄黒(ウスクロ)ク子バキ物(モノ)ヲ吐(ハ)ク事 同丁ウ
五八 腰(コシ)ヌケ手足(テアシ)不叶(カナハ)ザル事 七十一丁

五九　久レク腰ヌケ煩ノ事　同丁
六十　腰痛ノ事　同丁
六一　胸ヲ痛煩フ事　同丁ウ
六二　腰痛ノ事　七十二丁
六三　鼻痛ノ事　同丁
六四　口中痛ム事　同丁
六五　咽痛ム事　同丁ウ

六六　股足痛ム事　同丁ウ
六七　筋ヲ痛ム事　同丁ウ
六八　身骨ウヅク事　同丁ウ
六九　産後中風ノ事　七十三丁
七十　風ホロせノ事　同丁
七一　風腫ノ事　同丁
七二　風毒ノ事　同丁ウ

七三 腫氣ノ事 七十二丁
七四 腰ヨリ下腫ルヽ事 同丁
七五 子ヲ下レフコナイ煩フ事 同丁ウ
七六 味噌氣嫌ノ事 同丁ウ
七七 産後阿欠シテ腮ノ離ル事 同丁ウ
七八 阿欠シテク涙多ク流ル事 七十五丁
七九 レヤクリ出ル事 同丁

八十 舌ヲ出シ湯水ヲモ不飲ウカヽト煩フ事 同丁
八一 心胱ウカヽトメ二三年モ煩フ事 同丁ウ
八二 労瘵ノ如ク煩フ事 七十六丁
八三 髪ヌケ跡白クナル事 同丁
八四 十日十五日モ人心ナク眠ル事 同丁ウ
八五 胸ニ熱氣アッテ煩フ事 同丁ウ
八六 手足冷ル事 七十七丁

八七　手足暖ナル事　同丁
八八　面赤ク手ニ熱アリ足冷ル事　同丁
八九　足冷ヘ面ホトフリ耳鳴ル事　同丁ウ
九十　産後コトノ外瘦ル事　同丁ウ
九一　横寐ナラヌ事　同丁ウ
九二　帯トキノ事　同丁ウ
九三　手ノ内腫ル事　七十八丁

九四　臍ノ下天目ホドニ腫レ痛ム事　同丁
九五　臍ヨリ膿イヅル事　同丁
九六　子ヲ度々ウム者ハ古血アル事　七十九丁
九七　食違ノ事　同丁
九八　腹中堀アル事　同丁
九九　乳腫レ痛ム事　同丁
百　乳不足ニナル事　同丁ウ

百一　乳イデザル事　同丁ウ
百二　腹ノフトル事　同丁ウ
百三　産シタル女早ク使フ事　八十丁
百四　産後母ノ痘瘡ノ事　同丁
百五　息クサキ事　同丁ウ
百六　産後腰氣ノ事　同丁ウ
百七　産後赤白帯下ノ事　八十一丁

百八　産後氣大過ナル人長ク煩ヒ或ハ労瘵ヲヤミ俄ニ氣ヲトリ違フ事　同丁
百九　同小氣ノ人物ヲ苦ニシテ血ノ道ヲヤミ氣違事　八十二丁
百十　産後瘡ノ事　同丁
百十一　赤白長血ノ事　八十三丁ウ
百十二　問ヒ菜ノ事　八十四丁
百十三　産門疵瘡ノ事　同丁

百十四　産後禁物ノ事　同丁
○中条流小児方目錄
子生レ落ルト其ノ、養育ノ事　八十五丁
子出生其ノ、呑スル薬ノ事　同丁ウ
子生レテ声ヲ上ザル事　同丁ウ
生レ子ニ用ル薬ノ事　八十六丁
子ノ咽カワノ事　同丁

子ヒタト腹ヲ下ス事　同丁
夜啼ノ事　同丁
キレ草ノ薬　同丁
五疳ニ用ル薬ノ事　同丁ウ
ハス子ノ薬ノ事　同丁ウ
ヲトミ子薬　同丁ウ
二生湯驚風ヲ治ス　同丁ウ

丁子圓虫積霍乱ヲ治ス　八十七丁
○板坂流小児方目錄
小児出生二七日ノ間大便不通ノ事　同丁
同一二月ノ間身熱シ腹下ル事　同丁ウ
五疳ノ薬　同丁ウ
清涼飲子　同丁ウ
加減丁香散　八十八丁

豆蔻散　同丁ウ
木香散　同丁ウ
白中散　八十九丁
万理圓　同丁
加減理中散　同丁ウ
加減粮臓湯　同丁ウ
度嶂散　九十丁

惺々湯（シヤウ〳〵ヤウ） 同丁
阿伽陀圓（アカダヱン） 同丁ウ
普済散（フサイサン） 九十一丁
三神圓（ヱンジンヱン） 同丁ウ
豆蔻散（ヅクサン） 九十二丁
宿御湯（シユクギヨトウ） 同丁
駐車圓（チウシヤヱン） 同丁

小兒下痢妙薬（シヤウニゲリメウヤク） 同丁
赤痢腹痛ノ一方（シヤクリフクツウハウ） 同丁ウ
厚朴散（カウボクサン） 九十三丁
参苓散（ジンレウサン） 同丁
丁朮散（テウジユツサン） 同丁
枳殻散（キコクサン） 九十四丁

○中条流別錄口傳薬方目錄（ナカデウリウベツロククデンヤクハウモクロク）

止痛散（シツウサン） 同丁ウ
理中散（リチウサン） 同丁ウ
紅花散（コウクハサン） 同丁ウ
快後散（クハイゴサン） 九十五丁
調經湯（テウケイトウ） 同丁
早生秘葉（ハヤメヒヤク） 同丁
調栄湯（テウヱイトウ） 同丁ウ

澤蘭湯（タクラントウ） 同丁ウ
人參湯（ニンジントウ） 同丁ウ
補氣湯（ホキトウ） 九十六丁
養血牡丹皮湯（ヨウケツボタンピトウ） 同丁
延胡索湯（エンゴサクトウ） 同丁
增損四物湯（ゾウソンシモツトウ） 同丁
增損柴胡湯（ソウソンサイコトウ） 九十七丁

順血湯 同丁ウ
益母湯 同丁ウ
産後振り薬 九十八丁
白茶ノ方 同丁
同又方 同丁
白茶血道薬 同丁ウ
黒神散 同丁ウ

三味小切紙ノ方 九十九丁
二味二両小紙ノ方 同丁
催生神應散 同丁ウ
加減四物湯 同丁ウ
産後補薬 百丁
白之本味方 同丁
蘇神湯 百丁

天得湯（テントクトウ） 同丁ウ
解泄方（カイセツハウ） 百二丁
血下薬（チヲリクスリ） 同丁
握リ薬（ニギリクスリ） 同丁ウ
婦人秘薬（フジンヒヤク）サレ薬 同丁ウ
同サレ薬 同丁ウ
破血剤（ハケツザイ）ノ事 百三丁

子（コ）ナキ者（モノ）ニ孕（ハラ）スル方 同丁ウ
極意口上（ゴクイコウジヤウ）ノ一味（ミハウ）方 同丁ウ
山（ヤマ）ト云秘薬（ヒヤク） 百五丁
黒（クロ）ト云秘薬（ヒヤク） 同丁
関（セキ）ノ粉薬（コクスリ） 同丁ウ
関（セキ）ノ一味薬（ミクスリ） 同丁ウ
関（セキ）ノ額塗薬（ヒタイスリクスリ） 百六丁

塗(ヌリ)薬(クスリ)秘(ヒ)方(ハウ) 同丁
香(カウ)ノ粉(クスリ)薬 同丁ウ
黄(キ)ノ三色(イロ)薬(クスリ) 同丁ウ
痢病(リビヤウ)ノ秘(ヒ)方(ハウ) 百七丁
同産後(サンゴ)ニ用(モチユ)ル薬 同丁
痢病(リビヤウ)丸(グハンヤク)薬 同丁ウ
風毒(フウドク)ノ丸(グハンヤク)薬 同丁ウ

待相付(ニチアイツケクスリ)薬 百八丁
反(ソリ)張ノ灸(キウケツ)穴 同丁ウ
古血(フルチ)ノ灸(キウケツ)穴 同丁ウ
腰氣(コシケ)ノ灸(キウケツ)穴 百九丁

○濃州(ジヤウシウ)乗付(ノリツケリウ)流産方(サンパウモクロク)目錄

催世(サイセイ)順氣(ジユンキ)散(サン) 同丁ウ
順生(ジユンサイ)散(サン) 同丁ウ

横子手足出ス方 同丁ウ
隨醬散 同丁ウ
止痛散 百十丁

○板坂流女科目録

婦人脾血氣ノ事 同丁
婦人血分腫氣方 同丁
室女月候行トシ腫痛スルヲ治ル方 同丁ウ

正脾散 同丁ウ
加減四物湯 同丁ウ
月水滯腹痛スルヲ治ル方 百十一丁
命仙湯 同丁
腸痔多年不愈ヲ治ル方 同丁ウ
泻血不止ヲ治方 同丁ウ
腰氣サシ茶 付加減法 同丁ウ

同一方 百十二丁
○瀬之尾流産科目錄
産前方 保氣散 百十三丁
産前風寒方 同丁
四物湯 同丁ウ
難産逆産ノ秘菜 同丁ウ
胞衣不下秘菜 同丁ウ
産前後血上リタル治方 百十四丁
同風氣方 同丁
血道 并産後面腫方 同丁
血道 并手員方 同丁
血道身ノ毛立面赤ヲ治ル方 同丁ウ
難産或死胎胞衣不下ニ用ル方 同丁ウ
産後方 同丁ウ

同黒薬 百十五丁
産後古血不下胞衣不下ニ用ル方 同丁
産後血ノバリ 同丁
又方 同丁
アト腹ヲ治ル方 同丁ウ
神仙散 同丁ウ
當飯散 同丁ウ
黒神散 百十六丁
失笑散 同丁
産後反吐百薬不効ヲ治ル方 同丁ウ
呉茱萸湯 同丁ウ
血暈心氣絶スルヲ治ル方 百十七丁
三稜散 同丁
万病圓 同丁ウ

車前子散　同丁ウ
滑胎散　百十八丁
牛膝散　同丁
産後中風方　同丁
産後偏身痛方　同丁ウ
總目錄大尾

中条流産科全書　攝陽　戸田齋　刪補

○本味　号正氣古血散一名順氣散

人參　沉香　川芎
白朮　甘草　各三分一
芍藥　當歸　各等分

右七味水煎メ用ユ又為散ト温酒ニテ用ユルアリ酒少シ加ヘ用ユ但シ緩々ト養生スル時ハ酒少シ用ユ急用ニハ

・上戸下戸共ニ酔程ニ用ヒヨ

○加減法　参脉沉細ニ除ク或ハ減ス下レ度キ気弱ニ倍ス上盛ニ減ス又除ク歸下レ時ハ倍ス沉下レ度キ時ハ倍ス芍上せ度キ時ハ倍ス芍上せタキ時ハ倍ス朮腹中冷ユルカノウ血ノ倍ス口上中。所ニヨリツカイヤウアリ奥ニ記ス　甘草ニ何レノ加減ニモ是ヲ加ルソ

私ニ曰右薬味ノ中口上ト云フハ中条流極秘口傳ノ薬ナリ舊板是ヲ不レ錄其製法今具サニ奥ニ記ス

一唯加トハカリアルハ本味一味程ゾ

一大目引トアルハ一味ノ内三分ニヒクソ

一倍トアルハ大ヒニツカフ事ソ

一薬ノ製法如常▲人参上品芦頭ヲ去ルゾ

沉香ハ黒ク重実ノ物ヲ佳トス白ク軽虚ノ物不効ソ

○禁物　油気　川魚　雉鳥　抹茶　辛類　胡椒　生葱類　菌類　冬瓜　胡瓜　梨子　鹿肉　兎肉

○産ノ頃ヲ知ル事経水来リ止ルヿ常ニ月初ニアルハ八月

初ニ産スルモノ也又月中ニ月水アルハ中旬ニ産ス下旬ニ月水アルハ必月末ニ産スルモノ也但シ中旬ニ留ルハ産安シ月初メニ留ルハ必難産成ルモノ也服薬養生スベシ

○婦女孕ム事経水畢テ十日ノ内ニ孕ムナリ是シ過テ後孕ムコトナキ物也此故ニ常ニ経水月初ニアル者ハ産スルモ月初ナリ凡ソ始メテ孕者丸十ケ月前後十一ケ月ニシテ産ス後々ハ丸九ケ月前後十ケ月ニテ産ス是ヲ以計ルニ不違

○悪阻ノ事経行止リテ両三月精神如故酸ヲ好ミ食ヲ悪ミ或ハ何ニテモ一物ヲタシミ痰又ハ清水ヲ吐キ体重ク頭痛シロ渇シ嘔吐上氣腹痛下利耳鳴卧スコトヲ好ミ其婦ニヨリ病状一般ナラズ究メテ難云経行不調ノ病カ姙身カ脉ヲ以テワカツベシ

○脉微滑ニ数ニシテ無間断濇ナラズ伏ナラザル則胎脉ナリ又一法指頭ノ脉寸口ニ倍シ氣衡ノ脉寸口ニ倍ス是決シテ孕メル也

○男女ヲ知ル脉ノ事寸口滑実ヲ男トス尺中滑実女トス両寸滑実欒男トス両尺滑実双女トス右尺左寸滑実双男女トス

○上ニ血有ル者ハ口早ヤニ酒ニ醉フ人ノモノ言フ様ニ

アリ又下ニ血アルハ如何ニモ静ニ寐ル様ニ言也此理ヲ以テ万事心事心得アルゾ

○腹サシ出シ孕ミタル者安産也背ヘツイテ孕ム者ハ必難多シケ様ノ者ニハ惣メ酒ヲ呑セヨ女ノ氣フトクナレバ産ハ安キモノ也又身ヲ大事ニ思ヒ身ヲツメ氣ヲ労スルニヨリ難産スルヿ有リ是等ニハ酒ヲ進メヨ

○胎内ノ子爰カシコ居処ヲ替ルト云ハ必逆子横子ノ患

・アル者也其心得ヲ以テ色々替ル様子ヲ油断ナク見テ
　薬ヲ与フベキコトゾ
○腰冷(ヒエ)ルトテ惣メ炭(スミビ)火ニアタルハアレド、血ノ上ルモノ
　ナリ但シ焚(タキ)火ハ不苦(クルシカラ)
○産前如何ホド暑(アツ)ツガルモ水ヲ浴(アビ)スルコト悪シアツトヲ
　ビユレバ子必乳口(チクチ)ヲ離(ハナ)スモノ也乳口ヲハナシタル子
　ハ必母ノ膳(キモ)ヘ喰ツクモノ也此薬方アリヨクニ記ス

○産前ニ脉カヂケタルハタトヘモノヲハツキト云トモ
　氣弱(コハ)シ只脉タシカナルガヨキナリ
○産前水腫(スイシュ)ノ者産シテ血暈(ケツウン)セサル者也胸ヨリ上腫アル
　ヲ逆水トス産安クテモ母ハ多ク危(アヤウ)シ腹以下腫(ハレ)ルヽモ
　産ハ安シトイヘド母子共ニナヤムソ産前ヨリ服薬(フクヤク)
　シテ可慎也

産前 附 臨蓐 后産

一 不食シテ煩(ワヅラ)フヿアリ本味ノ内人參川芎ヲ減(ゲン)ジ當飯白朮ヲ倍シテ用ユ又宿砂大ニ加ルゾ飯沉ハ常ヨリ倍シテヨシ二十日三十日不食シテモ不苦大カタ右加減ノ薬一日ニ五三服可用惣シテ身草(クタビレ)卧氣カヒナキ人ニハ薬ヲイカニモ和(ヤハラ)カニシテ用ユルヿ第一ナリ

・齋按スルニ此症華人(クハジン)悪阻(ヲツ)ト名ク肥人ハ痰トシ瘦人ハ

・熱トス痰ハ二陳湯ノ属ヲ主トシ熱ハ逍遥散ノ属ヲ加減シテ用ユ又白朮黄芩縮砂等ハ古ヨリ安胎ノ主薬ト撰ヒ用ユベシ人参モ症ニヨリ忌ムベキニ非ズ

二 二三月ニテ食違ニテ煩フコアリ本味ノ内沉香當皈ヲ倍シ用ユ子下リソウナル時ハ甘草ヲ倍シ用ユ氷沉細ハヨシ細ニシテ熱氣アラハ子下ルコアルベシ本味ノ内人参大目ニ當皈沉香倍シ用ユヘシ

三 目ノ上重ク時々大イキヲツキ煩フハ大事ナリ本味用ヒ様子ヲ見脉浮大ニシテ息アラクハ陳皮香附子ヲ加ヘヨヌソレくニ加減シテ用ヒルゾ腹脹フクレツク息キ死人ノニホヒスルハ尤大切ト知ルベシ

四 孕テ帶ヲシメタルニ中程ヨリ帶ヲトク人ニハホソリ茶ヲ用ヒテ帶ヲトカスベシ高貴ノ人ニハ日ヲ重子テ一日ニ三度ツヽ用ユベシ下賤ノ者ニハ一月ニ二三度ツヽ

用ヒサセヨ但シ毎月ノヿナリホソリ薬ハ本味ニ青皮中加ヘヨ又一方三分一加ヘルヅ帯ヲイヤガル時右ノ如ク スルナリ

五 熱ヲ煩フ時ハ本味ヲ以テ養生スヘシ前後トモ熱ノ煩ヒニ本味バカリ用ルヿ専一ナリ餘症アルニハソレ〳〵ニ加減スベシ

六 風ヲヒキ熱気アルニハ陳皮香附子ヲ加ヘ用ヒヨ

七 大熱氣ヲ煩フニハ本味ニ陳皮香附大ニ加ヘ用ユ又汗ノ加減スベシ甚キニハ川芎ヲ倍ス

八 傷寒悪寒發熱ニハ本味ニ羌活防風ヲ加ヘ汗ナクハ紫蘇葛根ヲ加ヘ頭痛ニハ白芷ヲ加フ寒熱往来ニハ柴胡黄芩ヲ加ヘ用ユベシ

齋按スルニ姙婦傷寒ニ麻黄湯桂枝湯ヲ忌ムト云フヿアリ墮胎センヿヲ恐ルヽヲ以ナリ雖然傷寒太邪ニ至

リテハ如右ヌルキ薬ヲ以救ヒ難シ熱甚キ片ハ症ニヨリテ大小兼氣湯トイヘ圧施用セズンハアルベカラズ胎墮スヿヲ恐ル、圧毋治セズンバ子ヲ獲スベキノ道理ナシ勿論麻黄桂枝忌ムベキノ薬ニ非ズ左ニ姙娠禁忌ノ薬品記ストイヘ圧狗々トシテ琴柱ニ膠スルヿナカレ症ニ隨ツテ用捨スベシ

○嬢姙禁忌之薬品之事

烏頭　附子　天南星　半夏　巴豆　大戟　芫花
藜芦　牛膝　皂莢　牽牛子　茴根　干漆
瞿麥　三稜　麥牙　冬葵子　常山　牛黄
麝香　諸石薬

九　三四ケ月ニテ古血煩フニハ色牡丹ニシテ加フルゾ古血下リテ悪シキヿナシ下シ度時ハ皈尾ヲ用ヒテヨシ本味ニ沉香ヲ倍ス

十一月二月ホド子腊リテ流ルヽコアリ古血アツテ子宮ヒユル故ナリ本味六七服ホド用ヒ後ニ本味ニ牡丹皮二色ニシテ加ヘ用テ古血ヲ下シ養生スベシ牡丹二色ハ生ト炒トナリ又曰三四ケ月ニシテ毎々墮胎スル者ニハ本味ニ生地黄艾葉阿膠ヲ加ヘ可用

十一 虫出テ煩フニハ本味ニ丁子ヲ加ヘヨ無効片ハ沉香ヲ倍シ香附子ヲ大ニ加ヘ用ユ此煩ヒ必ス酒ヲ不好モノナリ如何様ニシテモ酒ヲ進ムベシ

十二 三四月ニテ毋ノ喉ヨリ虫イカ程モ出ルコアリ本味ノ内當皈炒沉香焙川芎芍薬二味大目ヒク牡丹皮炒丁子青皮ヲ加ヘ用ユベシ大率ノ煩ヒナリ氣労シ古血多クシテ下焦冷タル故ナリ脉ハ時々打切レ有テ沉細ナルモノナリ難産ノ基ナリ又曰毎日虫出ルコアリ上氣スル人ニハ香附子山梔子ヲ加ルガ

十三 味噌汁ヲ嫌フモ悪血ナリ又胸ノツカユルモ下焦ノ冷ナリ其心持第一ナリ本味ニ牡丹皮少香附子少加ヘ用ユヘシ前後同前ナリ

十四 咽乾クニ本味ニ牡丹皮少麥門冬中葛根中加ヘヨ

十五 腹痛煩フニハ本味ニテ様子ヲ見不治ハ本味ニ牡丹皮炒少シ加ヘ用ユベシ又曰先甘草大々加ヘ用ユ

十六 吐逆出ルニハ本味ノ内當皈沉香倍丁子ヲ加ヘ用ユヘシ不苦イカニモ母ノ身ヲ温ムベシ

十七 咳逆(ガイギヤク)ニハ関(セキ)ノ粉茶ヲ奥ニ記ス砂糖(サトウ)ヲ酒ニ化(ノウ)レテ用ユ但シ茶ノ粉茶バカリモヨシ本味ハ前ノ吐逆(トキヤク)ノ加減ニテ用ユ

十八 腹中煩(ワツラ)フニハ本味ニ黄(ワウバク)ノ三色茶加(ノウ)ヘ用ヨ但シ魚ニハ丁子ヲ加ヘヨ又腹痛アリ或ハ不食ニハ宿砂ヲ加(ノウ)ヘ用ユベシ

十九 痢病ニハ黄蘗(ワウバク)ノ三色茶糯米粉ニ砂糖少加ヘ薄茶一服

程ヅヽ白湯ニテモ食ノトリ湯ニテモ用ユ但シ本味ノ養生ノ間々ニ用ヒヨ三色茱ハ奥ニ記ス又曰多ク傷産スルナリ油断ナク茱ヲ用ヒヨ又秘方奥ノ茱方部可考

二十 冷タル物ヲ食シ熱気アルニハ本味ノ内人参炒當皈沉香倍陳皮香附子大ニ加ヘ用ヒヨ

廿一 霍乱ニハ本味ニ陳皮香附子ヲ加ヘ可用

廿二 眩暈ノ煩ハ痰氣又ハ悪血モ有ベシ本味ニ當皈大倍川芎中倍其外同前香附子中加ヘ用ユ加減ヨクく心得ベシ

廿三 頭痛ニハ本味ニ香附子ヲ加ヘ用ヒヨ

廿四 胸氣ニハ本味ニ香附子大ニ加ヘヨ

廿五 淋病ヲ煩フニハ本味ニ沢泻中木通中加ヘ用ユ水腫ノ心アラバ猪苓中加フ不治ハ山茨菰中加ヘヨ

廿六 小便渋リ或ハ不通ニ本味ニ牡丹皮二色ニノ加ヘ不治ハ沢泻猪苓ヲ加ヘ用ユ一方山茨菰ヲ加フ

廿七 大便結スルヿアリ本味ニ大黄ヲ加ヘヨ

廿八 脱肛出テ不入ヿアリ則本味用ベシ又黒蛤ヲ煮テ其汁ニテソロ〳〵ト洗フベシヒキ茶ニテ推シ入ル、也前後同前黒キ蛤ナクハ黒キカタ付タル貝モヨシ又マチ合一ツニ成テ脱肛出ルヿアリ其時ハ蛤ノ汁ニテ洗フヿ悪シ

廿九 足冷イタミ煩フハ下ニ冷タル血有テ上ニ上ルナリ本味ノ内當皈沉香ヲ倍シ用ユベシ産ノ前カドニヨク養

生スベシカラ子ニナルモノナリ

三十 母ノ身大イニフクレ惣身ニ細カナル物フキ出ルニ本味ニ牡丹皮炒大黄少加ヘ古血ヲ下スベシ

三十一 母ヨレト云フ煩ヒハ夜昼物ニ驚キ氣ヲ取失フヿ也本味ノ内當皈沉香倍人参大目ヒク甘艸炒用ユベシ又曰本味右ノ加減ニシテ牡丹皮炒中遠志中麥門冬中加ヘ用ユ但シ悪血ノ心ナクハ牡丹皮ヲ去ル又曰本味ノ間々ニ関ノ粉

薬ヲ茶一服ホドツヽ白湯ヲ以テ用ユベシ（セキノ粉薬奥ニアリ）

三十二 母ノ舌不動痛ムヿアリ古血故ナリ本味ニ沉香倍芍薬川芎（大目引）陳皮香附子ヲ加ヘ用ユ又汗ヲ出スベシ冷タル煩ナリ

三十一 惣身スクミ煩フヿアリ古血故ナリ本味ニ風ヲ去ル加減シテ用ユソレニテ不治ハ本味ニ牡丹皮（ヨク炒）加ヘヨ下戸ナリ共酒ヲスゴスベシ帯ユルヽセヨ

三十四 惣身冷腹中熱ノ煩フヿアリ本味ニ香附子陳皮倍汗ヲ出スベシ捨ヲケバ産ニ向ヒ大ニ血下ル事アルゾ産ノ一ケ月前二ケ月前ヨリ本味ノ内人参（大目引）川芎芍薬倍用ベキナリ

三十五 惣身骨痛物ニ狂フヿアリ古血故ナリ又風ヲ引テ煩フヿアリ本味ノ内當皈炒沉香牡丹炒加ヘ用ヒテ母バカリ養生スベシ又子痛ムヿアル時ハ本味ノ内甘艸ヲ倍用ユ

大爭ノ煩也母バカリ養生スレバ子ノ痛ムヿアルモノ也
又痛風ノ如ク惣身骨痛ミ足屈伸ナラズ久シク煩フヿア
リ関ノ粉薬ヲヌル湯ニ化ノ引ベシ右本味ノ療治ニテ縫
々ト治スベシ惣ジテ前後腫ル者アリ常ト各別ナリ外科
ナドニカケベカラズ

三十六 腫風ニハ本味ノ内人参ヲ減シ陳皮小香附大加ヘ用ユ
又陳皮不加モヨシ

三十七 母ノ腰腫レ廿日モ卅日モ煩フニハ本味ノ内川芎芍
薬倍牡丹皮炒加ヘヨ熱氣アルニハ香附子陳皮ヲ用ユベシ
腫タル腰ニハ関ノ一味ヲ奥ニ記ス水ニテ塗ルベシ

三十八 腫氣サシテ煩フ事アリ前後古血故ナリ本味ニ牡丹
皮生炒二色ヲ加ヘ用ユ古血下ルヿアリ本味ノ川芎芍薬
倍シ用ユベシ但シ腫足ヨリサスハ不苦上ヨリサスハ大
事ナリ則前文ニ見タリ可考

三十九 母ノ腎ヨリ腫物出ル支アリ其時ハ伏龍肝ヲ粘ニ押
テ世腫タル処ニヌリテ紙ヲフタニスルナリ内茶ニハ本
味ニ牡丹皮ヲ加ヘテ古血ヲ下スベシ

四十 母ノ腎ヨリ膿イヅルコアリ直ニ本味ヲ用ルヲ其間
ニ紅花散ヲ與ニアリ少ツヽ可用前後共同シ

四十一 會陰ノ腫レ煩フニハ本味ヲ黒焼ニシテ胡麻ノ油ニ
テ付扱又本味ノ内川芎芍薬倍用ユベシ

四十二 七月八月ニテ血下ルコアルハ産ニノヅミ生レカ子
ル物ナリ本味ノ内人參川芎芍薬倍當帰沉香大目引用ベシ
必ス止ル也又云血下ルコ少シヅヽハ不止多ク下ル時右
ノ本味ニテ不止ハ騏驎竭ヲ焼テ本味ニ壹匁加ヘテ必ズ
止ル也口傳曰産前キリン血ヲ用ル時ハ必ス焼ベシ其侭
ハ腹ノ子ニアタル者也又産後ニキリンケツ用ルコ大事
ナリ大形本味ニテ留テヨシ下去血多下ル時ハ先本味ニ

テ血ヲ止メテ其上キリン竭ヲ可用ケ様ニせ子バ後煩フ物ナリ何煩モ本味養生專一ナリ當飯川芎芍薬甘草炒用ルガヨシ十日九日血下ル時モ右ノ如ク心得ベシ

四三 大血ト云フテタキノ水ノ如ク血走ルコアリ是ハ子留リテ五月六月七八月ニテモ走ル物也本味ノ内沉香當飯小芍薬川芎大人參炒用ベシ無効ハキリン竭焼●コレ程ニ紙ニ包ミ本味ノ内ヘ入用ユベシ

四四 血止リテ物ニ狂フ支アリ本味バカリ用ヒ汗ヲカヽせ酒ニ醉せ養生スベシ何ト狂フ圧苦シカラズ

四五 血不時ニ下ル止メテ後熱氣出ルコアリ不苦本味ニ陳皮香附子大ニ加ヘ用ユベシ

四六 目口鼻ヨリ血出ルコアリ帶ヲユルクシテ本味ノ内人參炒沉香當飯倍用ユ其後帶ヲトキ右ノ加減ニテイカ程モ用ユベシソレニテモ不止ハ牡丹皮炒大黄炒加ヘ用

ベシ

四七 吐血スルコトアリ本味ニ丁子少加ヘテ用ユカギ葉ヲ手ノ内ニヌリテカバセヨヌ子ブラスモヨシ但シカギ葉ハ理中散奥ニ記スヲ用ユ葉モ湯水モ吐(ハキ)カヘスニ理中散ヨシ白湯(ユ)ニテ少シツヽ可用ナリ

四八 産前ニ向ヒ喉(ノド)ヨリ血出(イデ)ヽタ痰血(タンケツ)ノ時ハ本咏ノ散葉ヲチカヤノ煎湯ニテ用ユベシ

齋按スルニ古来茅(バウ)ヲチカヤトヨムニ依(ヨツ)テ誤(アヤマ)レリ茅ハツバナ也血ヲ止ルノ効(コウ)アリ故ニ茅根(バウコン)ノ煎湯可(ベ)ナリ

四九 血乱(ミダ)レテ譫語(センゴ)シ齒(ハ)ヲカミ又悪寒發熱スルコトアリ本味ニ芍葉小飯尾小加ヘ用ユ其後香附子ヲ中加ヘ用ユベシ

五十 嬰姙未満月或ハ四五月ニ腹中ニ子死シテ目口ヨリ血出テ煩(ワヅラ)フコトアリ子死タル故ニ脈キルヽナリ案スルニ古血ノシハザ也古血下シヲ用ヒテ其後早(ハヤ)メノ加減シテ

用ユレハ死胎則下ルナリ仕覚アル故書記ス

五一 胎内ニテ子死スル妄アリ其時ハ脉沉細ナル物ナリ又左右脉切ルヽコアリ又片ヨリテ死タ方バカリ切ルヽ妄モアリ又母ノイキノサキ物ナリ本味ニ牡丹皮生良姜ヲ加ヘテ用ユベシ子クサリテ下ル物ナリ又曰本味ニ良姜生炒ニ色ニシテ大延胡索中合テ酒ニテ二服頻ニ用ヒソレニテモ不下ハ本味ニ倍加ヘ用ユベシ良姜ヲ用レハ子ハフレ〳〵ヨリ切レテ下ルグ又曰死胎ニ雲母ヲ加ノ又産室ニタキ茎ヲ焚クベシ安産ニ云吉ナリ

五二 息クサク舌黄ニノ脉沉細ナルハ死胎ナリ右ノ加減可用子ハ一日ノ内ニ下ルモノゾ下リテ後ハ本味ヲ用

齋按スルニ華人ノ外候ハ息クサク舌青シト誌ス

五三 母病デ子胎内ニ死タル如キコアリ本味ニ牡丹皮ヲ加フ又手足ヲ出スコアリ其子イマダ生タルニハ関ノ一味

奥ニヌ水ニ化ノ子ノ出レタル手足ニヌルベシ毋ユモ舂記ス
スベシ其子死タルニハ前ノ加減ヨシ又曰死胎ニテ手足
出レタル時ハ出シタル程キリト毋ニカクレ袋ニ入レ
五四 衆ノ木ヲ手一束ニ切テ煎ジ用ユベシ
子ヲ下レ其跡ニヤガテ留リタルハ産ノ時生レカヌ
ル物ナリ下レタル時ヨクく古血ヲ下せバ不苦
五五 子ヲリタル跡煩フハウミタル跡ヨリ大事ナリ本味

ノ内沉香倍牡丹皮生加ヘ用ユベシ腰痛ニハ延胡索ヲ加
ヘ用ユベシ
五六 毋クリケツキ煩フニハ本味ニ牡丹皮炒加ヘ用ヘシ
不効ハ口傳ノ灸アリ毋ノ臍ノ下一すヲ十五壯ホドヤク
ベシ後ヘフラバ前ノすヲトリ龜ノ尾ニアテ上一すヲ右
ノ如クヤクベシ又灸所奥ニ記ス 反張ノ下産後
五七 足ノウラ腫レ煩フニハヌリ薬ニ本味ニ牡丹皮生加ヘ

粉ニノ水ニテトキヌル扨又本味ノ内芍薬川芎倍用ベシ

五八 氣勞レ眠ルニハ本味ノ内人參川芎芍薬各大目引當飯沉香倍酒ニテ少レ醉ホド用ユベシ

五九 姙婦心モナク五日モ十日モ眠ルヿ一日モワスル、程寐ルコアリ氣勞レ又悪血ノ故ナリ本味ノ人參ヲヨク炒イリ川芎芍薬ヲ減レ當飯沉香ヲ僞シ用ル也氣勞レタル病人ハ後ニ胸痛ムモノ也酒ヲ過サスベカラズ能程ニ与フベシ

本味ニ遠志ヲ大ニ加ヘ用ユ右ノ加減前後同前ナリ

六十 氣勞レタル者ハウカヽトスル也ソノ時ニハ本味ニ白茯苓ヲ加ヘ用ユ又曰心地ノ名トリ失フニハ遠志茯神ヲ加フタビレ物イミレ或ハ氣ヲトリ失フニハ遠志茯神ヲ加フ

六一 産前目ノ見ヘヌ者アリ本味ニ人參ヲ倍レ用ヒヨ

六二 氣ヨワキ者ニハ前後トモ人參ヲ用ルヿヲ忌ムナリ又気大過ノ人ニモ本ヨリ忌ム是非用ヒテ不叶時ハ焙テ

用ヒヨ大形ナラハ無用ニスベシ

六三 髪毛拔(ヌク)ルヿアリ本味ニ香附子ヲ加フベシ又曰本味ニ當皈五倍ニ加ヘ川芎ヲ減(ゲン)ジ用ユ

六四 ウス黒キ子バキ物ヲサイ〳〵吐(ハ)クヿアリ本味ニ二色ノ牡丹皮大々加ヘ一二貼用ヒ其後(ノチ)右ノ牡丹皮ヲ去リ白朮中或ハ少甘艸少丁子少加ヘ可用

六五 寐ルト其〻〻夢(ユメ)ヲ見ルヿ度々ニ及(ラヨ)ブト云フヿアリ

本味ニ遠志ヲ加ヘ用ヒヨ

六六 子乳口(チヅチ)ヲ離(ハナ)レ煩フニハ本味ニテ様子ヲ見不治ハ本味ノ内白朮甘草倍粉薬ニメ砂糖ヲ酒ニ化(クハ)シ用ユ

六七 子乳口ヲ離(ハナ)ス時ハ必ス母ノキモヘ飡付(クヒツク)モノ也白朮ノ末ヲ蜜ニナリ圧無キ時ハ砂糖ヲ酒ニトキ用ヒヨ白朮ハ惣ノキモニアタル物ヲ推(ヲ)シ落(ヲト)スモノナリ

六八 子キモヘ逆上(サカノボ)リ薬ヲモ何ヲモ不下事有(ル)ニハ白朮ヲ

末ノ一味酒ニテ用ユ白朮ノ沙汰已ニ前ニ謂ツ

六九 子古血ニセカレテ胸モトヘ上リ不食スルニハ本味ノ内人参色ツクホド焙川芎芍薬ヲ除キ當皈沉香大甘艸白朮如常陳皮香附子ヲ加ヘテ用ルヲ

七十 悪血ニテ熱氣アリ不食スルヿアリ本味ノ内皈尾大々ヲ用ヒ牡丹皮大白朮中合一貼用ヒソノ後本味ニ香附子宿砂各小加ヘ用ユベシ

七十一 孕胎ニテ月水如常見ルヿアリ必ス古血過タル女此煩ヲスル也本味ニ生炒二色ノ牡丹皮大加ヘ人参ヲ減シ古血下シテ大事ナシ必ス脉沉細也右二三貼用ヒテ不治ハ血竭○丸シ上ヲ紙ニテ張白湯ニテ二三度モ用ユヘシ不治ハムツカシキヅ

七二 母ノ乳滝ノ如ク出ルヿアリ子死タルカ古血ニセカレタルカノ二ツナリ本味ノ内川芎芍薬大目引當皈沉香大

甘艸倍 牡丹皮炒加ヘ用ユ帶ヲイカニモ緩クシテ足ノ裏ニ延胡索牡丹皮生ノリニ押ニゼハリツケ養生スベシ又曰氣勞シ腹中ノ子悪血ニセメラレテ乳口ヲ離シテ此煩ヒヲスルコアリ本味ニ遠志大々加ヘ甘艸小人參少用ルナリ

子多タル見ヤウ前ニ記ス

七三 子宮腫ルコアリ本味計合シテ黒焼ニメ油ニテ付ベシ内蒸ニハ古血下シ佳ナリ

七四 子宮出テサガルコアリ三色ノ牡丹皮ヲ一二三ト合シ○コレ程ニ丸シ産門ニサスベシ本味ニモ加ヘ用ユ又産門カハク時モ是ヲ用ヒヨ

七五 毋無頻惣身ヨリ水ノ如クナル物出ルニハ本味ノ内人參況香倍茅根ヲ加ヘ用ユベシ又曰此煩ハ其氣勞シヌハ古血下リカ子ル也本味ノ内人參倍當皈況香大ニシテホウヅキノ根ヲ加ヘテイカ程モ用ヒヨ産前ニ九日此日

モ古血下レヲ用ヒテ可レ下イカヤウニ煩フ𠮟不レ苦

七六 子宮ヨリ白キ物イヅルニハ本味ノ内當帰沉香倍牡丹皮二色ニノ加ヘ用ユベシ

七七 母ノ手ノ指サキ痛ミ煩フコアリ胎内ノ子腎ノ緒ヲ首ニカケ煩フニ依テナリ本味ノ内白朮倍用ヒレ大事ノ煩也脉ハ沉細イカニモ茶ヲヤワラカニ使フベシ又曰指サキ痛ニハ本味ニテ冰砂糖ヲトキ用ユ又砂糖ヲ本味ニ等分ニシテ常ノ如ク煎シ用ユベシ

七八 胎肉ノ子腎ノ緒ヲ首ニ巻コアル時ハ毋必ズカラヲツキスル者ナリ又十指ノ先キ痛ムモノナリカラヲヅキアル時ハ川芎ヲ除キ白朮ヲ倍シ用ルヅ

七九 月経止リテヨリ動クコトナク次第ニ腹大ニ成テ子𠮟血塊𠮟不レ知コアリ七八ケ月ノ頃高キ処ノ物ヲ取テ見ルニ腹中痛ミ指サキ痛ム者ハ子ト可レ知又高キ処ヲ下ル時

ケツ一ヅキテ手足ナヤミ有ルモ子也其時ハ三色人参丹皮ヲ丸薬ニノ千姜ノ煎湯ヲ薄クシテ用ルニ胎内ノ子動狂スル者也其時ハ本味ヲ直ニ可用右ノ薬ニテ動狂ナキハ血堀ナリ

八十 血堀ヲ解クニ皈尾大 牡丹皮大 川芎中 芍薬小 人参小 白朮少 甘州少 干姜延胡索加ヘ用ユ此方ニテ不解時ハ良姜生炒大 三色ノ牡丹皮大 紅花中 干姜中 如此合シ粉薬ニノ薄茶一服ホドヅヽ本味ノ煎湯ニテ用ユ又丸薬ニノモ可用但シ散薬ノ時ハ干姜ヲ去ルベシ右ノ療治煎湯尤佳ナリ惣ジテユルヽト養生スル時ハ酒ノ用ヒヤウ口傳アリ又曰牡丹皮二色ニノ本味ニ三分一加ヘ用ユ不治ハ又生ニテ用ユ此方口傳多シ

八一 血堀下リタル時ハ本味ヲ黒焼ニノ用ユ但シ此薬バカリニテ中々古血不可下右本味ニ大黄莪朮紅花香附子

ヲ加ヘテ用ルヅ咽渇ハ葛根ヲ加ヘ発熱アラハ柴胡ヲ加ヘ
フベシ唯脾胃ヲ補フヿヲ要トス

八二 石子ト云テ腹ニ子ホドノ物アリテ生ヿモナラズ十
日廿日ニテモ生レケナク煩フヿアリ其見ヤウハ先脉ヲ
診ニ沉細ナリ其上胎内ニテ不動又アヽリフトルヿモナ
ク母ハ子胎内ニアルヨリモ苦シムモノ也其時ハ本味計
六七服用ヒ脉ヲ診ニ右ノ薬ニテモ沉細ニシテ暫ルヿナ

クハ本味ニ牡丹皮大良香ヲ加ヘ用ユベシ腹ヲサグリ見
ルニイカニモ堅ク腹中冷ルモノ也又曰胎内ニテ手程ノ
塊アリ痛ミ手足腫気微シアリ息大ニメ煩フニハ本味ニ
芍薬ヲ倍シ飯尾大加ヘ用ユ又本味ニ三色ノ牡丹皮大黄
等分ニメタケクラベニ合シ甘酒ニテ用ユ常ノ酒モ佳ナリ
古血解ケ下テ後右本味ノ内飯尾ヲ去リ芍薬ヲ減シ用ユ
ベシ 前ノ血塊ノ条可レ考

八三 子宮ヨリ天目ホドノ物出ルコアリ本味ノ内川芎芍
薬倍用ヒヨ出ル物ニハアイノ実ヲ水ニテトキヌルベシ
不レ治ハ牡丹皮生香附子加ヘ用ユベシ大事也
八四 サキ走リトゾ云テ先日ホド子宮ヨリ白キ物出ルコ
アリ産ニ臨ミ生レカスル物也皆古血故ナリ右ノ薬ヲ用
ルニハフノリヲ水ニ立テ用ユベシ大事也又曰先本味ヲ
用ヒ見ルベシ子宮イヅルコアラバ本味ノ内川芎芍薬大

帯ヲトカセ養生スベシ出ル物ニハ藍ノ実ヲ水ニ立テ塗
イカニモ温メ汗スベシ薬ヲ多ク用ユベシ古血ニ風ヲ引
タル故ナリ子宮出ルコ湯トゾ云コ奥ニアリ
八五 十日十五日前ヨリ血下ルコアリ不苦本味ニキリン
ケツヲ加ヘ歯ニアタラサル様ニ白湯ニテ用ユコ血下リノ
可ニ考合
八六 十日十五日前ヨリ渋リ水コホル、コアリ不苦本味ニ

栢子仁ヲ加ヘフノリニテ可用
八七十日十五日前ヨリ破水下ルヲ
ノ時シブリ必ズ生レカ子ルモノ也奥ニ記ス難産ノフノ
リ某用ユベシ此内ニ丁子ヲ加ヘ可用サナケレバ虫サシ
出ルモノ也口傳曰本味ヲ濁酒ノ水ノ不入ヲレボリテ如
何ニモカンアツクシテ用ユ第一ノ煩ナリ右ノ如ク血下
モアリ右ノ類カサニ三ツ程下ル時ハ海羅ヲ茶一服ホド

用テヨシ但シフノリハ少シ塩ケアリテ多ク用レバ咽渇
スモノ也細ニオロシ用ルゾヌ一方本味ニ牡丹皮少紅花
少加ヘ其後右ノ加ゲンニノ又大黄等分ニ合シフノリヲ
酒ニ化メ用ベシ可秘々々

八八 母外ノ支ナク度々気ヲトリ失フすハ子母ノ喉ヘ手
ヲツキ入ルヽト知ルヘシ此時煎湯ノ中ヘ藍ノ実末シテ
入ベシ

八九 母ノ股ヨリ下ニ熱氣アリテ煩フハ古血故ナリ本味ノ内川芎ヲ倍用ルゾ其後當歸沉香倍牡丹皮炒加ヘ用ベシ

九十 母月ヲ持コレ十五ケ月十七ケ月ナドニテモ不生アリ其時ハ本味ニ早生ノ加減ノ用ユベシ後ニ記スサセルコトナクハ療治ニ不及本味フロくト用ヒヨ但シホフリノ加減スベシ產近ツカバ頻ニ早メノ加減三分一加ヘ用ユヘシ又ホフリノ加減ハ青皮ヲ加フ但シ一ケ月越ハ三分一味加ヘ二ケ月越ハ三分二加ヘ三ケ月越ハ等分ニ加フベシ

九一 胎内ニ子アガクハ古血ニ世カレテモダユルナリ本味ニ牡丹皮炒三分一加ヘ用ユ

九二 胎内ニテ子啼モダユル支アリ本味ノ内沉香甘艸倍用ユベシ

九三 胎動シ子啼クルフテ腹痛ミ身アツカイスルコトアリ不善本味ヲ直ニ用ヒ其後三色ノ牡丹皮一二三ト〇コレ

ホド二丸シ本味ノ煎湯ヲ以テ用ユ又古血ニセカレテモ
ダユルコアリ安胎散(回春)ノ方ヲ用ユ母ノ身ヲ暖メ右ノ茶イ
カ程モ用ベシ又曰胎動ニ青皮ヲ加フ

九四 母ノ喉(ノド)ヘ子手ヲ出スニハ本味ニ藍(アイ)ノ葉ヲ加ヘ温(アタヽ)メ
酒ニテ用ユベシ

九五 産近付(チカヅ)キ重(ヲモ)シ掛(カク)ルト云コアリ食(メシ)餅味噌(ミソ)汁何ニテモ
腹(ハラ)一パイ食(メシ)ハセ帯ヲヨキ加ゲンニメ子(コ)返(カヘ)リスルヲ見合(ミアハ)セ
帯トクベシケ様ニセ子バ子自由(ジユウ)シテ上ヘアガリ子返(カヘ)リ
シカ子ムツカシキナリトカク食(シヨク)ヲ過(スゴ)スコ是ヲ重(ヲモ)シカク
ルト云ナリ

九六 帯解(ヲビトク)カゲンニハ本味ノ内沉香大二用ユベシ

九七 産ニ臨(ノゾ)ミニ三日或ハ四五日前ニ先血下(クダ)ルコアリ先(マヅ)
本味バカリ用ユベシ但シ子生(ウ)レカ子ハ本味ノ内當皈沉香
大川芎芍薬大目引用ルヅ

九八 後ノ物子ヨリ先ニ下ル妛アリ不苦又後ノ物ニ三日前ニ下ル共本味バカリ用ユ若シ子生レカ子ハ本味ノ川芎芍薬減シ沉香少シヲシ用ユ又後ノ物ニツレ大血走ルコアリイカニモ本味ヲ和ラカニメ用ユ若シ血多ク下ラバキリン竭焼●紙ニ包ミ本味ノ内ヘ入レ用ユベシ血少々下ラバ本味バカリニテ和カニ養生スベシ又曰胞衣先ヘ下ルニ田螺ノ黒焼三分本味ニ倍シ用ユベシ

九九 子宮先ヘ出ルニ棟ノ嫩芽ノカゲ干ヲ末ノ二目本味ニ加ヘ酒ニテ用ユベシ

百 産前ニ産門ヨリ挽茶ノヤウナル物出ル時ハ子宮先ヘ出ルト知ルベシ

百一 産前イケミ有テ度々産門ヲカユガルトキハ胞衣サキヘ出ルト知ルベシ

百二 産ニ向ヒ身持様ノコ側ヘヨリカヽル事ナカレ胸腹

イタムトテ仰ノケナカレ子返リセントテ痛ムモノナリ

百三 腹ツヨク痛ムコト不苦コレニテ返ルト知ルベシ必ズ
イケミナクシテ生ルヽナリ

百四 常ノイケミニテ返ル時ハセギリ胴ヨリ出ルナリ少
ヲヤミヽハルト知ルベシ

百五 同イケミ有テ血度々下ル支アリ子死スルト知ルベシ

百六 産ニ臨ミ小便出ルハ横産カ又ハ死胎ナリト心得ベ

シ又水ヲ下スコト止ザルモ死胎ゾ

百七 難産ニイケミ止タキ時ノ療治ハ水八升ヲ以テアツク沸シ鍬ヲヨク焼キ右ノ湯ノ中ヘ入レグサくトニヱタツ時鍬ヲ取アゲ其湯ニテ足ノ曲リノ下ヲ洗ハセテヨシ内薬ハ欵冬根五分常ノ如ク煎シソレニテ本味五貼用ベシ

百八 ハシリノ後カイノロニヌルル薬藍ヲ水ニ立テヌル

ベレ藍玉トアリ関ノ一味薬トモ云

百九 産ニ臨イケムフ不レ成ニハ其身ニ不レ抱本味ヲ用ユベレ又掛茶ヲ少レ用ヒ横ニ寝サセ身ヲ温メ汗ヲカヽセイケミ立メルヲ見合セ本味ニ川芎大黄三分一入レソレニテ子不レ動ハ早生ヲ可レ用掛茶トハ海藻生粉ニシテ本味等分加フ

百十 産ニ臨ミ母ノ胸ヘ子上リ生レカヌルフアリ其時ハ

ヤゾ母ノ胸ヲサスリ子ヲ下ヘサゲテ本味ヲ二三服用テ抱母ヲイカニモ温メテ本味ノ内ヘ早生茅ヲ加ヘ用ベレトケバ下返ハスレ圧生カヌル物ナリ帯ヲトカバ食ベレ圧用ヒサセテ帯ヲトクベレヲモレヲカクルトハ此妄也是第一ノ口傳ナリ

百十一 産ニ臨ミ物ニ狂ヒ煩フフアリ先本味ノ内人参炒用ユ頂ニ藍ノ実子宮ニモ塗ルベレ大事ナリ

百十二 産ニ臨ミ子返レカ子バ本味ニ牡丹皮大黄ヲ加ヘ用ヒ無効ハフノリヲ本味ニ入レ母ノ帯ヲ強クサセ内ノ子ニ身ヲツメサスベシ子返レタキ時ハ子宮ヨリ白キ物出ル母ノ腰痛ムナラバ帯ヲトキ生スベシ生レカ子ハ大黄大ニ加ヘ用ヒヨ

百十三 子宮フサガリテ生レカヌルニハ本味ニ牡丹皮生加ヘ用ユ古血下ルベシ不治又曰本味ニ牡丹皮香色ニ炒リ加ヘ末メ紙ニ包ミ丸メ上ヲツバキニテスラシテ子宮ヘサスベシ

百十四 子宮不開子頭ヲ出シ生レカヌルニハ本味ニ大黄少シ加ヘ用テカケテ用ユベシ扱又子宮ニハ牡丹皮生ト炒ト延胡索ト三色等分末メ粘ニヲレ合セサスベシ又女ノ足ノ裏ニツクベシ

百十五 母ノ股ヘ子足ヲ入レ生レカヌルニハコレヲ立子トイフ藍実ヲヌ

リ本味ノ内人参焙川芎白朮二味大當皈沉香大目引用ユベシ
大叓ノ煩ヒナリ産キハニ股イタミ子返シカ子ハ右ノ煩
ト分別シテ帯ヲツヨクシメテ子ニ身ヲツメサセ其後シ
キリアラハ早生ノ加減シ可用

百十六 産ニ臨ミ小腹張リテ子返シカヌルハ古血モ能キ血
モ皆下ヘ下テ血ニセカレタル故ナリ其時ハ本味ノ川芎
芍薬倍香附子少加ヘ二三服用ヒ後ニ本味ノ内當皈沉香
大牡丹皮生加ヘ用テ古血ヲ可下無効ハ牡丹皮生粘ニ押
ヘ、ゼテ子宮ヘサスベシ口傳アリ

百十七 産ニ向ヒ産門ニ藍ノ実トキ塗ベシイカヤウノ難産
ニテモ不破シテ生ル、也

百十八 産ニ向ヒ腹下リフルフニ烏ノ卵ヲ黒焼ニメ二目本
味ニ加ヘ酒ニテ用ユベシ

百十九 産ニ向ヒ夢ノ如ク驚キヲソル、如クナルニハ本味

ニ遠志ヲ加ヘ白湯ニテ用ユベシ

齋按スルニ此症極虚ノレルレ也遠志ノ力ニテ及ブベキニアラズ大剤ノ獨參湯ヲ可用

百九 産ニ向ヒ大ニ振フコアリ本味ニ栢子仁桔梗ヲ加ヘテキ酒ニテ用ユベレ又曰本味ニ人參ヲ倍ス

齋按スルニ此症此方ヲ用ヒテ若不治ハ療治ヲクレテ危シ只初ヨリ独參湯ヲ用ルニレクハナレ

百十 産前ニ目ノ上重クイキ臥ク汗レミくト出フルヒ有ル事ナリ本味ニ遠志桔梗挑仁右三味加ヘ用ルノ

齋按スルニヤカテケ様ナル症ニ至テ此方ノ如キユルキ藥ニテハ決レテ救ヒガタレ大剤ノ独參湯ヲタテカケく用ユベレ

百十一 産ニ向ヒ腰起サル時ハ鶫ノ黒焼ヲ本味ニ加ヘ白湯ニテ用ユベレ

百九三 産ニ向ヒ嗽ヨリ血出又痰血ノ時ハ本味ヲチカヤノ煎湯ニテ可用チカヤハ茅根ノ前ニアリヲ用ユルト前ニアリ

百九四 産ニ向ヒ咳血アル片ハ本味ニ鹿角ヲ加ヘ白湯ニテ用ユベシ

齋按スルニ咳血等産前ニ発セバ治療ヲ加フベシ已ニ産ニ向ヒ発スル者ハ是ニカ、ハラズ先安ク産セン専一ニ意得ベシ産後イカヤウニモナルコトナリ

百九五 産ニ向ヒ嗽ヨリ血沢山ニ出ル時ハ本味ニ丁子杏仁ヲ加ヘ白湯ニテ用ユベシ

百九六 産ニ向ヒ産門交骨不開トキノ吹薬ノ麦甘松石灰蕎麦ノ花右等分ソバフラノアクニテトキ管ニテカウモンニ可吹入

百九七 早生薬ニハ香白芷一目百艸霜五分右海草湯ニテタテ、天目八分程用ユ無効ハ牡丹皮生炒二色粘ニ押ヘゼ

手ノ内足ノ裏ニ付ベシソレニテモ驗シナクハ●是ホト
ニ丸ジ子宮ヘサスベシ又曰本味ノ内芍薬去リ紅花大加
ヘ同秘薬ヲ加ヘテヨシ秘薬トハ熊ノ爪ヲ鮫ニテ摺粉ニ
シテ加ル難産逆産死胎何レモ生レカヌルニ秘薬大紅花
大ニ加フルゾ又曰本味ニ桂心香附子檳榔括呂根各一匁
大黄五分加ヘ用ユ又鹿茸ヲ黒焼ニメ白湯ニテ用ユ又方
本味ニ川芎ヲ倍シ大黄等分ニメフノリニ化メ用ユベシ

[illegible]八 催生薬方 常ノ催生方ヲ用ヒテモ生レカヌル者ニコノ薬ヲ用ユヘシ

大黄　延胡索　鼠糞

右三色等分本味ニ等分ニ加ヘ用ユベシ

齋按スルニ此催生薬ヲ用ント思ハヽ先産婦ノ息ツカ
ヒ顔色ニ心ヲ付脉ヲ診察メ用ユベシ若元来ヨハメナ
ル婦人カ或ハ又ツヨメナル婦人ナリ圧三五日モ腹痛
食モスクナク其間トリアゲ婆々度々取立気体ツカレ

テイヨく生レ兼ル者ニハ決シテ不可用其時ハ必ス独
参湯ヲ用ザレバ生カヌル者ナリ如此疲レタル産婦ハ
タトヒ此催生茶ニテ一旦効ヲ取ル圧立ドコロニ死ス
ルナリ能々意得ベシ何程ツヨク腹イタム圧時到ラサ
レバ産ハナキト知ルベシ頓テ可生ヲ知ルヿハ脉ニテ
可知ソノ脉ハ三部圧浮数ニメ力アリ或ハ婦人ノ常脉
ニヨリ左ナキモアレ圧何分力ハアルナリ又左右ノ巾

指ノ末ノ横紋ノ所ヲ軽ク押テ見ルニ必ズ動脉アリ是
モ手ノ脉浮サル者ハ軽ク按テハ不知其時ハ漸々ニ重
ク按テミルベシ凡浮タル脉ヲ始ヨリ重ク按ハ又不知
モノ也此脉出レハ早速生ルヽト知ベシヲソクテモ四
時メニハ必生ルヽ也若此脉出テ一日モ不生ハ其症ニ
隨ヒ独参湯或ハ催生茶ヲ可用其出サル内ハツヨク腹
痛ス圧此方ヨリサソヒ生サセントスル叓斟酌スベシ

此脉ノ支ハ方書ニミヘテ予数多ノ産婦ヲ試ルニ必ス
シルシアリ

百廿九 産ニ臨ミ呵欠シ乍去押立テモ不生頻リニ腹痛煩フ
氏脉大ニメ手ノ内冷ヘ足ノウラ温カナラハ不苦ヒヅ本
味ヲ用ヒ帯ヲトキタラハ又サセ扨頻リニ生ミタヽハ早
生薬ヲ用ユベシ

百三十一 産ニ臨ミコ湯ト云フ物下ルヿアリ其下リタルホド
フノリヲ用ヒ早生ヲ与フベシ又曰本味ノ粉薬フノリ一
倍入レテシルクトキ用ユベシ

百卅一 産ヲタモタスルヿ持コシタキ時ニハ本味ニ沉香當
皈ヲ倍シ用ユベシ

百卅二 双子ニテ子宮ニ向ヒ生レカヌルニハ本味ニ牡丹皮
生加ヘ用ヒ扨子ヲ二ツ二分ケテ母ノ腹ヲサスリ右ニア
ル子ヲハ胸本ヘサスリ上ケ帯ヲサセ早生ヲ用ユベシ一

人生レタラバ其後又本味ヲ用ヒ母ノ氣色ヲミテ何ナリ
ヒ望ノ食ヲ飡ハセ又帯ヲトキ又早生ヲ用ユベシ又曰血
シバリヲ用ルニ依テ子抱合テ生レザルヿアリ其トキハ
古血下シヲ用ヒテ右ノ如ク生スナリ何時モ此心淨尤也
但シ前ニ本味ヲ用ヒテ母ノ元氣ヲウクラフベシ若子死
タルハ夫々ニ加減アリ右本味ハ當皈ヲ倍シ可用死胎ノヿ前ニ
カヽカヲベシ

百八三 逆子横子ノ叓手足出ルヿアリ其時ハ関ノ一味ヲヌ
ル湯ニテ化メ塗リ難産ノ加減後ニ記スセキ一味薬ヲシ
テ用ユ又手足ノ不入ニハ血竭ヲ用ユ又萆麻子ヲスリ甘
艸ヲ加ヘ七椎又百會ニ可貼口傳ニメ可付手足ヲ出シ五
日十日モ不苦本味ノ内川芎芍薬ヲ減皈沉ヲ倍早メ加減
シテ用レハ子ハ死シテ生ル、事アリ

百八四 子足ヲ出シ生レ兼ルニハ藍ノ実ヲ水ニタテ出シタ

ル所ニスリ母ノ帯ヲトキ本味ノ内芍藥川芎倍用ユベシ

百五 同 片足ヲ出ス時ハ母ヲ横ニ寐サセイゲミヲ止メテ子ノ足ノウラニ握藥ヲ付藥方ノ部ハ松葉ニテシカ〳〵サセハ足ヲ引ナリ尻高ニメ一時バカリモヲキ腰湯ヲサセ催生ヲ用ヒ如常生スベシ若子死タル時ハソノサリ藥ヲ以テ療治ズ藥方死胎ノ条ニ出

百六 同内藥ノ一本味ニ桂心尉金雲母右三味ヲ加ヘ酒ニテ用 此内藥トハ死胎ノトキノカゲンナリ

百七 逆子腰ヨリ下出ル時ハ向ニ腰ヲ折ツケ前ニトリアゲバソノ功者ナルヲ居ヘ療治スベシレフレニテモ不生時ハ二三度モハワセテヨシ甚時ハ子ヲ緒ニ包ミ母ノ両手ヲ向フヨリ取テ頭ヲ上ゲサセ這スルナリサレ共不生トキハ腐藥ヲ用テ療治ス右ノ如クスベシ

百卅八 横産片手出ス時ハ仰ケニ寢サセテ右ノ如ク可療治
又子死シタルト知ル時ハ腐薬ヲ以テ療治スベシトカク
温ニノヨシ又手ヲ平ニ出ス時ハムツカシ、其時ハ母ノ
元氣ヲトリ立緩々ト心ヲ持セ帯ヲカケイケヽヲ止メイ
ク度モ上ヘサスリ上ルヤウニシテ手ヲ引トキハ横切ニ
帯ヲカタクシテ尻高ニ寐サセ一日一夜バカリ間ヲヲキ
又取立テ常ノ産ノ如クニシテ生スベシ

百卅九 同両手ヲ出ス時ハ母ヲ仰ケニ寐サセ左ノ足ヲ上ヘ
上ゲ何ニテモツカヱヲ置付ケ薬右ノ如クシテ出タル手
ヲ縮ニ包ミユルヤカニシテ一時モヲキ母ヲ起シ仰ノキ
スグル程ニシテ熱湯ニテ横切ヨリ下ヲ洗ヒ腹ヲビシカ
ケ生スルナリ若不生時ハ又仰ケニシテ縮ヲトキ胸ヘサ
スリ上ルヤウニシテ吐薬ヲ用レハ胸ヘせリ上ルナリ其
時横切ニ帯ヲ堅クシテ又水落ニモ帯ヲ堅クシテ催生薬

ヲ用ヒ汗ノ出ル程シキリアル時取立下ノ帯ヲトキ常ノ如ク生スルナリ

百四十 同右吐薬ノ方川芎酢ニテ用ヒ又伏竜肝ヲ呑汁フノリヲヨク煮テ酒ヲ少シ加ヘテ天目ニ一ツ用ユベシ

百四一 同内薬ノ叓本味ニカツレイ草 口傳後シルス 箱根艸桃仁右三色加ヘ用ユベシ

齋按スルニ横産逆生固有ノ理ナシ是ミナ医者トリア

ゲバヽノ下手ヨリ起ルト知ルベシナゼナレバ医者トリ上バヽモ産婦ノ腹サヘ痛メバミナ早生薬ヲ用ユルモノト意得シキリニ用之或ハ未子返リモセザルニ急ニ取立イキヅマセ時モ到ラヌニ無理ニ生スル故ニ多ハ横生逆生トナルナリ元来催生薬ハ難産ノ為ニシテ平産ニ用ユル物ニハ非ズ五七日モ痛生レカヌルモノニハ已ヿヲヱズシテ用ユルモノト意得ベシ

百四三 子生レカヌルモ血上リテ下ニ血ナキ故ナリ本味ニ當皈沉香ヲ倍シ川芎等某ヲ減シ用ユ此時ハ脉沉細ナリ

百四三 産ギハニ悪キ某ヲ服スルニヨリテ破水モハシラズ腹コトノ外大キク成テ子不生コアリ古血下シノ内ニ早メ某ヲ少シ加ヘテ用ヒ生シ氣付ク其時帯ヲ胸本ヘ上ゲサセ次第〳〵ニ推シ下テ生ギハニ帯ヲトキ則生スル也右ノ某ノ内ニホクリ某ヲ加フベシ本味バカリ用ヒ其後如此スルグ

百四四 子返リシテ生レズハ弓ノ弦ヲハヅシテ母ノシラザルヤウニ腰帯ニサセテ産シテ後トクベシ

百四五 難産ノ加減ト云ハ本味ニ延胡索ヲ加ヘ用ユルグ但所ニヨリ大中ニ口傳アリ又右ノ加減ノ内ニ炒牡丹皮ヲ加ヘ馬鞭艸ノ葉カゲ干ニシテ一ゑ五分煎湯ニシテ右ノ散某ヲ用ユルグ甚妙ナリ

百四六 破水皆下リアトカワキ不生難産セハ香白芷一ヶ百艸霜五分各末メフノリヲ白湯ニ化メ用ユルゾ此ヲ催生散ト号ス此時氣血衰ヘ或ハ氣力少ク不食シ産ニ向腹ノカラ少ク子生レカ子ハ黒神散ヲ用ベシイカ様ノ難産ニテモ三貼ニ不越生ルヽゾ早メニモヨシタメシノ方也

黒神散方　當皈　地黄　桂心各大　赤芍中　人参小　蒲黄中　干姜中　黒豆二分　甘草少　右如常煎服腹一盃ニナル程タテカケテ用ユベシ

百四七 古血ニセカレテ子生レカ子バ生牡丹皮大黄本味ニ三分一加ヘ用ユベシ又肉桂紅花各大　皈尾中　梹榔子小　右煎服ス是ヲ催生湯ト名ヅク

百四八 胞衣不下トキ難産ノ加減シテフノリヲ化シテ用但シ天目ニ一盃ホドゾ

百四九 後物不下ラヿ内熱シテツカユルナリ不下トテ股ニ結

付ルヿ悪レ若結付テ堅ニリタル時ハ湯ニ入ヤハラカニテ
内ヘ入ルナリ其當坐ナラバ其侭内ヘ可入扨本味ニ延胡
索大 大黄三分 加ヘ下スヘシ大黄ニサヾサレテ必ス下ル
ナリ後ノ物ヲ必ス結付ルヿ勿レ又本味ニ牡丹皮生 延胡
索ヲ加ヘテ下スモ佳ナリ必ス下ルナリ又久シク不下ヿ
アリ右ノ方ニテ可下但シ十日、及不下トキハ本味ニ良姜
牡丹皮ヲ加ヘテ切テ落スベシ但シ三五日ノ間ハ本味バ

カリニテヨシ米ノ粉鍋ニ入塩少水少加ヘ手拭ニ包ミ
腰ノ廻リヲ可温
百五十 後ノ物不滞ヤウノ加減ハ催生ノ薬ニ延胡索牡丹皮
ヲ加ヘテ用ユレハヲノヅカラ胞衣ハ下ル也
百五一 後産子宮ニ入ルヿアリ其時ハ必ズ毋コトノ外放疵
スルモノナリ難産ノ加減ニ青皮少加ヘテ用ユベシ又足
ノ裏ニ付薬アリ同シヿクハ不付ガヨシ口傳ナリ又延胡索

生牡丹皮香色ニ炒五分本味ニ加ヘ必ズ下ルゾ雞產ノカゲン并ニ付菜菜方部ニアリ

百五二 後產(アトサン)腹中ニアル時ハ脉沉細ナル者ナリ又下リテ後ハ脉浮大(ツヾダイ)ナル者ナリ五六日前ニ子生(ウマ)レ又一人腹(ハラ)ニ子ノ殘(ノコ)ルヿアリ其時ハ脉ウチ切レテタヘ又ウツ時ハ如何(イカ)ニニモ大ニ少シフル心アリタトヒ後ノ物ト見付ケタリトモ難產ノ加減シテ用ユベシ必ス子殘(ノコ)リ居(ヲ)ルヿ有(アル)モノ也

百五三 后產(アトサン)不下ニ用ル菜方

榆白皮(ユハクヒ) 香附子 芍菜 桂心 牛膝 右本味ニ加ヘヨ

又方 桂心 生地黃各大 當皈 芍菜 黑豆各中 香附子小 甘草少 又

牛膝(ゴシツ)湯 紅花 桔梗各大 瞿麥(クバク) 牛膝 桂心 牡丹皮各中 右七味 又

秘方 牛房子 イワシノ燒頭 甘草 右三味等分粉ニソ

明巻少加ヘテ酒ニテ用ユ妙ナリ
又胞衣不下時ノ菜木味ニ延胡索一分 蒲黄 五厘 大黄 二分
右三味ヲ加ヘ可用

齋按スルニ胞衣久シク下リザレハ古血胞中ニ入ヲノ
レテイヨく不下却テ上心ヲ衝キ危キニ至ル其時如此
緩キ薬ニテハ救ヒカガタシ花蕊石一味細末シテ四五
分牛膝葉ノシボリ汁ニテ用ベシ葉ナキ時ハ根ヲ搗キ

生汁ヲ取用ユ花蕊石ハ薬舗ニモ沢山ニナキ者ユヘ急
ニハ求ガタシ産科医者ハ常ニ吟味シテ調置ベシ其石
理微粗微黄色ニテ点々ト白花形アリ観美ナルモノ也
正真稀シ吟味シテ買ベシ此方ハ元本艸綱目ニ出テ予
ガ家ノ経験ナリ但シ其用ヒヤウ本艸ト異ナリ又本艸
ノ説ノ如ク制ヲ用ヒズ其ヽ、打砕細研シ用ユ

産後

攝陽　戸田齋　刪補

一　産後ハ脉浮滑(フクワツ)ニシテヨシ又ハ沉細(チンサイ)モヨシ大キクヒツハリシフリ早(ハヤ)キハ悪シ夫(ソ)レ婦人産シ畢(ヲハリ)テ即チ振(フリ)薬ヲ奥ノ薬方ノ中ニアリ用ヒテ物ニヨリカンラセ足(アシ)ヲ少シ屈(カガ)メ少シツヽ睡(ネムル)ラセ多ク子ムラセズ酢(サク)ヲハナニヌリ振(フリ)薬ニ童便(トウベン)少シ

ツヽ加ヘテ用ユル也扨又手ヲ以テ胸ヲソロ〳〵トサスリ
サスリ古血不滞ヤウニ如此スルヿ三日ナリ目マイ血上
ルヿナシ頻リニ白粥ヲ少シツヽ用ユベシ三日過キテ後
ニ味噌汁ノ類少シツヽ用ユベシ魚鳥ノ類ハ一ケ月ノ後
ニ食スベシ多言スベカラズ喜怒憂悲恐驚ヲ慎ムベシ
若又氣血ヨハキ人百日ノ内慢ニ不養生メ手足腰腿如掣
痛ム病ヲ褥労ト云フ最モ難治症也産後諸病ハ凡テ大ニ

氣血ヲ補フベシ
後ノ物不下ヿ前部ノ末ニ記ス本書ノマヽナリ
二 産後血ヲシヅムル薬ハ本味バカリ用ルガヨシ其時
ハ帯ヲモ緩々トサせ帯ノ内ニ手ノ甲ノ自由ニ入ル程ニ
シテ養生スベシ
三 産後ニ炭火ニヨキ酢ヲカケテ母ニ嗅セヨ血暈ニ
ヨシ

四 アトハラ痛ム二ハ本味ニ延胡索三分 牡丹皮二色ニテ
加ヘ用ユベシミナ古血ユヘナリ不治ハ飯尾大 牡丹皮中
良姜中芍薬小丁子小右如此用ユベシ但シ軽キ者ハ本味
ニ牡丹皮ヲ加ヘテ可治又曰薬ヲ加フ

五 半産ノ後本産ノ時ノ如ク大ニ腹ヲ痛ムコアリ本味
ニ沉香倍 牡丹皮生 良姜ヲ加ヘ用ヒヨ又大ヒニ腰ヲ痛ム
支アリ本味ニ延胡索ヲ少シ加ヘ用ヒヨ又曰ニ三ケ月ニ

テクダシタル跡ハ大産ヨリ重シ本味ヲ直ニ用ユ其ウヘ
香ノ粉薬奥ノ薬方ノヲ少シツヽ度々用ユベシ

齋按ズルニ半産本産ノ後ノ腰痛腎下大ニ痛ムモノハ
右ノ薬ヲ用テ可ナリ或ハ腎ヨリ上痛ム者ハ多クハ寒ニ因テナリ其時ハ右ノ薬ハ不宜
暑ニアタリ食ノ滞ルニ因テ可用又腎下ノ痛ミモ少シノコトハ
平胃散ノ類ヲ加減シテ可ナリ瘀血ノ下ル度ゴトニ少シヅヽハ
思慮ヲ不加シテ可ナリ

痛ムモノ也而ルニ猥リニ此方ニヨリ破血ノ薬ヲ用ヒテ急ニ古血ヲ下スハ悪シ瘀血コトゞク下レハ痛モ自然ニ止ト知ルベシ

六 本産半産トモニ大ニムツカシキ時湧泉足ノウ左右ニ灸スベシ息絶タルモ温リ有之ハ成程大ニシテ灸スベシ心持ヨク氣付タリ圧脉出ズハ曲池左右ノヒヂノマガリニ灸三壯ツヽスベシ

齋按スルニ産後シバく昏暈シ已ニ死セントスル者一概ニ極虚ノミニ非ズ或ハトリ上ゲハヽ無功ニテ帯アマリ緩スギテ目ヲマハスモアリ然レ圧是ハ希ニアルヿナリ凡ソ帯ハ緩スギルモ悪ク又シメ過タルモ悪シ是ハトリ上ゲバヽノ所為ナレ圧医モ亦可心得ヿナリ但シ始ヨリ帯セザル婦人ハ此例ニアラズ

七 産後ノ氣付ケニ牛黄円蘓香円用ユベカラズ死スル

ナリ本味ノ内人参ヲ倍シ用ユルゾ但シ強ク血上ル時ハ人参川芎一ヶツヽ増ス餘リ上ラバ人参ヲ減シ本味ソノヽヽ用ユベシ

八 子ヲ生ミ古血上リ血狂スルニハ本味ノ内當皈沉香倍シ陳皮香附子加ヘ用ヒ酒ヲ過サ世帯ヲ緩々トシテ枕ヲ能キコロニサセ養生スベシ何ト狂ヒ不苦又曰ウハ血上リテ俄ニ物ニ狂フニハ四物湯ニ香陳皮荊芥ヲ加フ

又曰血上リ狂ニ犀角荊芥川芎人参沢蘭本味ニ加ヘ上戸ハ粉ニメ酒ニテ用ユ又曰血上リ狂フニ本味ニ犀角荊芥百草沢蘭ヲ加ヘ用ユ人参川芎加減アルゾ

九 大ニ血ハシルニハ本味ノ内川芎芍薬倍二三服用ユベシ若無効ハ牡丹皮炒加ヘ悪血ヲ下スベシソレニテモ不止ハ騏驎竭燒●紙ニ包ミ本味ノ内ヘ入レ用ユヘシ十日廿日古血下ル圧不苦但シ廿日三十日モ下ル時キリン

ケツヲ加フヌチヨウレノ吟ヨリ水ヲツク如ク多ク下ル時ハキリンケツ生ニテ本味ニテ三分一加ヘテ用ルヴ此三分一ハ本味ノ三分一ノ又三分一ナリ血キック止ル時ハ煩フコアリ血竭ヲ用ルコト大事ナリ又曰本産半産後死二大ニ血下リスルトキハ本味ニ白茅ノ部ニ有ヲ加ヘキリンケツヲ紙ニ包丸レ右ニ色白湯ニテ用ユ但レニ包三包ニハ不過又曰大血下リ面青ク身フルイ氣ツクニ荊芥當

飯各大 地黄大 黒豆中 人參少甘艸少煎レ用ユヘレ

十 本産半産後死物狂ハレキ時本味ニ黒神散ヲ加ヘ神黒散ハ茅方ノ部ニ出 酒ニテ用ユ産前コノ症アルモ同レコトナリ

十一 血乱レテ悪寒發熱スルニハ本味ノ内當飯芍茅ヲ倍レ人參減レ炒用ユ又関ノ額塗茅ヲヒタイノ上ニヌルベレ又関ノ一味茅ヲ用ユルモ可ナリ口傳ニスベレ血乱レテ物ニ狂フニハ香ノ粉茅バカリヲ酒ニテ可用サテ関ノ額

ノ塗薬ヲヌレ塗リ様ハヒタイノ真中ニ銭ノ輪ホドニウスノリニテ付ルナリ

十二 血止リ過テ熱氣サシ又氣ノ違ヿアリ不苦本味ノ甘艸倍陳皮香附子大加ヘ用ユヘシ

十三 産後熱氣ヲ煩フニハ本味ノ芍薬大甘艸倍香附子ヲ加ヘ用ユ又大熱或ハ疫病瘧ヲ煩フヿ有ㇾ陳皮香附子ヲ本味ニ一分加ヘテ用ユベシ口傳ニ夏ハ風引ヿヲヽキ

物ナリ陳皮香附子加ヘ用ユベシ又ハ温氣ノ強ケレハ右ノ二色ヲ不放加フルガヨキナリ

十四 産後目マイニハ本味ニ伏龍肝三分明巻一分加ヘ水ニテ用ユベシ

十五 目旋リ氣違フ事アリ本味ニ當皈沉香各倍干姜大加ヘ用ヒヨ

十六 目旋リ人ヲ不見知ヿアリ関ノ一味薬ヲヌル湯ニ化

レテ額ニ塗ルヌ少ツヽ本味ノ間ニ用ユ其後本味當飯甘草ヲ倍シ用ユヌ方當飯沉香ヲ倍シ用ヒ間々ニ香ノ粉茶ヲ少ツヽ白湯ニテ用ユヘシ

十七 脉大ニテ汗アリ手ノ内暖ナルハ何程狂氣スル共不苦ヲノ時ハ本味ニ香附子大加ヘ可用

十八 産後クリケ付コアリ古血有テソル者アリ本味ニ牡丹皮青皮ヲ加ヘ用ユヌ日反張ニハ本味ニテ姜中加ヘ牡丹皮小加ヘ用ユベシ但ノツケニクリ。茶ニテ治セズハ灸所アリ某方ノ奥ニ有又曰牡丹皮炒リ過シテ本味二六倍加ヘ用イヨヌ日反張ニ荊芥ヲ用ユ是秘事ナリ氣力スクナク不言齒ヲ食ツメ、或ハ反張ニ荊芥湯ヲ用ユ齋按スルニ此症方書ニ産後ノ痙ト云又反張風ト云テ大事ノ病ナリ強チニ古血ノミニ皈スベカラス古方大豆子湯或ハ參附湯ナドヲ用ユ可考

荊芥ハ産後ノ要薬并金瘡破傷風角弓反張口噤手足瘛
血暈衝心不知人事者ニ齒ヲ押シ開キ荊芥炒末シテ酒
ニテ服ス或ハ童便ヲ以テ灌グ其効如神古人皆稱之或
曰愈風散曰如聖散曰再生散曰舉鄉古拜散荊ハ挙鄉切芥ハ古拜切
等数号アリ

十九 産後ニフルウ事アリ少モ不苦本味ヲ温メ酒ニテ可
用口傳曰物狂ハシク振フニハ酒ヲ可過本味川芎人参一

倍シ用ユベシ

二十 胸噪シテ氣上リ胸焦ニハ本味ニ遠志大麦門冬小加ヘ
用ユベシ

二十一 眩暈シテ振イツキ齒ヲ喰シメ発熱スルニハ極意口
上ノ一味バカリヲ可用ナリ

二十二 頭痛煩フ事アリ本味ニ川芎芍薬ヲマシテ三服ホド
用ヒ 一ニ沈芎ヲ倍々圧アリ 其後當皈沉香ヲ増シテ牡丹皮ヲ炒加ヘ古

血ヲ下スナリ何様ニ痛ム圧右ノ加減ガヨキヅ又曰前後
圧本味ニ香附子ヲ加フ又曰冷テ頭痛セハ柴胡黄芩麦門
冬ヲ加フ又熱出バ干姜ヲ加フベシ

二十三 頭痛血ノ道氣ニハ蜀漆ノワカメ旃檀ノワカメ茶ノ
ワカメ右三色末ニシテ本味一剤ニ拾ニ多加ヘ美酒ニテ
用ユ一剤トハ百六十目ナリ

齋按スルニ目下フハ眩暈ナリ血道ハ血暈ナリ旃檀ハ

棟ナリ

二十四 産後ニ子宮イヅル叓アリ其時ハ独活ノ皮ヲ和カニ
シテ叩キヒシギ蒸テ温ノ絹ニ包ミ子宮ニアテ母ノ尻ニ
物ヲカヒ上テ仰ケニ寐セテ足ニテソロ〳〵ト踏入ルナリ
但シ帯ヲ解クベシ独活ノ皮冷タラハ又温メ右ノ如クス
ベシ内薬ヲ用ヒテ氣ヲ取失ハヌヤウニスベシ大事ナリ
内薬ニハ本味ノ内人参焙リ川芎芍薬倍當皈沉香大目引延

胡索大陳皮香附子加ヘ用ユベシ又曰口上ノ一味卵ノ白ミニ和シテツケ独活ノ根ノ皮タヽキヒシギヨノ者ノ足ニテ息合ヲ見テ踏込ムベシ冷タルハアシヽ又千葉モヨシ腰ニモヌルグ又十四ノ推ニハリ葉アリ同クハ不張カヨシロ傳アリ

齋按スルニ此一症華土ノ方書ニ陰脫ト云者ニシテサ

一、デ重キ ニハアラス療治ノシカタ悪キニ因テ大事ニ至ラシム也凡産後頭少シ下ルタモ大キニ忌ム然ルニ仰ケニ卧セノ上後高ニシテ頭ヲ下サスレバ穢血氣散換逆上シテ必危ニ至ルナリ其独活ノ皮ヲ温メ外ヨリ押入ル支モ悪キニハアラス子ヒ元来産ノ時氣力ヲモミ大ニ疲レテ陰脫スルガ故ニ服薬サセテ元氣ヲ補ハザレバ外ヨリイカヤウニシテモ入ルコトナシサア

レハ外ヨリウドノ皮ヲ以テ温メ入ル圧仰ケニ寐サセズ物ニヨリカヽラセ居温入レ服薬ヲ専用ニスベシ此症ノ服薬古方當皈黄芪散　當皈散　十全大補湯　加味逍遥散　皈脾湯ノ類ヲ其見症ニ随フテ用ルヿアレ圧予ガ家法大抵補中益氣湯ヲ通用シテ其量一服二三銭ヨリ五六銭ニ至リ人参本方ニ准シ今用ル所ノ量ニ随ヒ用ヒテ可ナリ又古方ニモ外ヨリ温ルノ方種々有リ

或頂心ニ蓖麻子ヲ押シツブシ塗リ上ヘ引上ルヿモアリ考ヘ用ユベシ

二十五　産後ニ玉門返出タルニ内薬コレ大事也下焦ニ血多キ故開キ出ル也血ヲ上ヘノボセ順行スル心持ノ加減ヨシ本味ノ芎薬川芎ヲ倍シ當皈沉香ヲ減シ人参白朮圧ヘシテ可用何時モ氣血ヲ上ルニハ芎芍ニ味ヲ倍シ當沉ニ味ヲ三分一減スベシ口傳ナリ

二十六 同尻ノ出タルモ右同前ニ養生スベシ

二十七 同尻痛ムコトアリ牡丹皮二色ニシテ加ヘテヨシ

二十八 子宮ヒカズハ牡丹皮生末シテ大豆等分ニ粘ニテ丸シ子宮ニサスベシ

二十九 子宮ヨリ天目ホドノ物出ルコトアリ本味ニ川芎芍薬ヲ倍シ用ユ出タル物ニハ藍ノ実ヲ水ニ化シ塗ルベシ若不入ハ生牡丹香附子ヲ本味ニ加ヘ用ヘシ大事ナリ母ノ帯ヲ解カセ養生スベシ如何ニモ温メ汗ヲカヽセ葉多ク用ヒヨ古血ニ風ヲ引タル故ナリ

三十 後ノ物ヨナノ子宮ヘ入ル事アリ其見ヤウハ女シキリニ屁ヲヒルナリ延胡索牡丹皮等分本味ニ加ヘ用ヒヨ産前ノ末ニ詳ニ記ス可考

三十一 産後陰戸痛ム支アリ陳皮香附ヲ本味ニ加ヘ用ユ又湯ニ塩ト石灰ト少シヅヽ入テサイク洗フベシ

三十二 子ノ生ニ待相ヤブレテ陰門ト肛門ト一ツニ成ルヲ
アリ本味ヲ黒焼ニシテ胡麻ノ油ニテ付ベシ大小便モ血
モ流レ出テ葉付ルヲナラザルニハ靈天蓋ヲ末ニシテ少シ
加ヘテ付ベシ内葉ニハ本味ニ甘草ヲ倍シ用又白湯ニ焼
塩ヲ石灰ヲ入腰湯サセ水氣ヲヌグヒ葉ヲ付テヨシ但シ
是ハ病人ノ氣カニヨルヘシ又本味ニ牡丹皮大干姜黒炒
ニシテ卵ノ白ミニテ付ル其上ヲ独活ノ皮ヲタヽキヒシ

ギ蒸シテ敷付サスルヲ暖ナルハ悪キ也又血多クヲ下リテ葉
モ不ル付事アルニハ血竭ヲ用ロテ血ヲ可止ナリ
三十三 産後ニ目見ヘザル時ハ明礬ヤキ返シ路ノトウ黒焼
右末シテ熱湯ニタテ眼ニ吹ベシ産前モシ此煩ヒアルモ
同シ又曰本味ニ人參ヲ倍シ可用
齋按スルニ産前ニ此病アル者吹葉ニテ猶治スベシ産
後ニ至ラハ多クハ極虚ニ属セン大劑ノ独參湯ヲ急ニ

用ユベシ

三十四 産後耳ノ聞ヘス吏アリ是モ産ノキハニ古血不下故ナリ本味ノ内川芎五分 牡丹皮炒三分一加ヘイカ程モ可用也

三十五 産後ニ夢ヲ重子ヽ見テ驚クフアリ本味ニ遠志麥門冬三分一加ルナリ

三十六 寐汗ニハ伏龍肝ヲ末ニシテ粉ニ押マゼ臍ノマハリ三四寸四方ニハリ置テヨシ

齋按スルニ盗汗甚キニ至テハ止此ハリ薬ノミニテ治スベキニ非ス必ス服薬セシムベシ古方對症ノ方麻黄根人參湯參附湯當皈補血湯等アリ撰ヒ用ユベシ又當皈六黄湯アレ𪜈決シテ産後ニ宜シカラズ

三十七 子ヲ産テ後ノ物ニテモナク腹痛煩フコアリ古血ナラバ脉沉細ナルベシ又双子ナラバ弦ニシテ時々打切レアルベシ先本味ヲ用ヒ様子ヲ見古血ナラハ本味ニ催生

葉又牡丹皮ヲ加ヘ用ユベシ若シ子死シタラハ本味ニ牡
丹皮良香加ヘ用ユベシ死胎ノ下ル産前ニ記
三十八 鼻血又ハ喉ヨリ血出ルハ上ニ血アリト心得當飯沉
香ヲ増シ芍葉川芎ヲ加ヘテイカ程モ可用又腹帯強クシ
マリ鼻血出ルコアリヨキ程ニスベシ又曰香附子大ニ加ヘ
用ユベシ又曰本味ノ内人參當飯各五倍シテ用ヒヨ不止
ハ右ノ方ニ血竭三分加ヘ用ユベシ必ズ止ル也又大小便

ヨリ血下ルモ右ノ加減同前ナリ其時ハ産婦ノ手足屈伸
自由ニサスベシ身ヲ詰レハ必ズ腫氣サス者ナリ
齋按ズルニ此症氣血ヒニ耗損虚火ノ上リモアルベシ
其時ハ人參ヲ多ク用ヒザレバ不止容躰ニヨリ肉桂附
子干姜等モ用ヒザレバ止リガタシ
三十九 大便ニ血ヲ下スコアリ本味バカリニテ可療治
四十 吐血スルニハ本味ニ干姜大ヲ加ヘ可用又後ニハ是

ニモ手ノ内塗リ薬ヲ用ユルヲ薬方ノ部ヌリ薬出ス又悪血ニテ腹ニ熱氣アルニハ本味ニ牡丹皮ヲ加ヘヨ又関ノ一味薬可用

四二 吐逆アルニハ丁子ヲ加ヘヨ虫ニモ同シ又ナリ虫モ古血故ナリ丁子生牡丹ヲ加ヘ用ユ古血アレハ吐逆心アリ度々及スニハ本味ニ炒牡丹皮大加ヘ古血ノ加減肝要ナリ

四三 産後ニ喉カワキ湯水ヲ大ニ呑タガルコアリ本味ニ陳皮香附子牡丹皮生炒ニ色ヲ加ヘテ可用水呑タガルモ不苦古血下スベシ又曰麦門ヲ加フ

四三 下冷タル故ニカ或ハ水ナドヲ呑ミ古血カタマリ虫ナドノ様ニ煩フニハ本味ノ内當帰倍牡丹皮生加ヘ用ヒテ古血ヲ可下必ズ痛ミ止ムモノ也又曰水ヲ呑タリト云時ハ牡丹皮炒本味ニ三分一加ヘ用ユヘシ此薬用ヒテ半時アリテ後水ヲ飲ミテモ不苦渇キハ古血ノワサ之

四四 産後ニ古血不下ハ本味ニ生牡丹皮ヲ加ヘ猶不下ハ
炒テ加フ夫(シ)ニテ不下ハ二色ニシテ用ユベシ
四五 古血カタマリ身ノ内天目ホドニ腫(ハル)ルコアリ本味ヲ
黒焼ニシテ牡丹皮生ト黒焼トヲ等分(トウブン)ニシテ糊(ノリ)ニテ押合(ヲシアハセ)
付ルナリ左カ右カ一方ハル、モノ也
四六 大便結(ムス)スル事アリ本味ノ當皈白朮ヲ倍(バイ)シ麥門冬大
黄ヲ加フ牡丹皮ヲ加ルモ佳(カ)ナリ古血故ニ大便結スルニハ
牡丹皮炒用ユツヨクアブレバ大便通下ス少炒(イ)レハ小便
下ルナリ又曰古血ニテ大便不通ニハ難産ノ加減ヲ用ル
コアリ
四七 小便渋(シブ)ルハ炒牡丹皮大黄少加ヘヨ又本味ニ良姜ヲ
加ルモ可ナリ又曰小便不通ニ本味ニ沢瀉車前子木通ヲ
加ヘ用ユ又曰子宮塞(フサカ)リテ小便不通(ツウ)コアリ湯ニ石灰藍ノ
実ヲ入レ洗(アラ)フナリ内薬ニハ古血加減肝要(カンヨウ)ナリ

四八 小便間ナク頻(シキリ)ニ下リ不止ルコトアリ本味ニ人參炒川芎芍葉倍(バイ)シ當皈沉香減(ゲン)シ用ヒヨ又曰牡丹皮炒茨(イバラ)ノ根(子)ニ色ヲ加ヘ用ユベシ

齋按スルニ此イバラハ即チ本艸ノ薔薇根(シヤウビコン)ナリ

四九 小便不覚通ズルトキハ本味ニテンシユ口傳ニ曰酸醤艸根ナリヲ加ヘ白湯(サユ)ニテ可用ユ又湯ニテ足腰ヲ洗(アラ)ヒ温(アタヽ)メヨ

五十 産後咳嗽イヅルニハ本味ヲミナ火トリテ人參ヲ減(ゲン)シ白朮ヲ増シ香附子加ヘ用ヒヨ

五一 早(ハヤ)メニ物ヲ云ヒ色赤ク汗(アセ)出ルニハ本味ノ内川芎芍葉倍二三服用ヒテ以後沉香當皈倍用ユ

五二 産後物云コトナラヌ煩(ワツラ)ヒアリ先本味ヲ用ヒ其後古血ノ加減容体(ヨウダイ)ニヨル也

齋按スルニ古人亦古血ニ皈(キ)シテ主方ハ珍散四物四君合方ノ八珍ニ非ス又ハ孤鳳散等アリ

五三 食(レヨク)スヽマヌ事アリ本味ニ縮砂ヲ加ヘ用ヒヨ又曰ツヨク不食スルニハ本味ニ大黄三分一加ヘ用ヒヨ

五四 噦(ヨツキ)スル事アリ陳皮香附子ヲ加ヘ白朮ヲ少シ増シテ用ユ又甘艸ヲ増シ牡丹皮炒加ルモ佳(カ)ナリ

五五 産後泄泻痢病凡本味ノ間ニ黄(ワウバク)ノ三色薬加減シテ用ユ本味ニハ肉豆蔻中加フ又三色薬本味ニ一ヶ加ヘ用ユ又泄泻水ノ如ク下ルヿアリ右ノ加減可用ユ又本味ニ木香香附子ヲ加ヘ用ユルワ又痢病久シキ時ハ糀炒薬アリ薬方ノ中ニ記ス是ヲ本味ノ間々(アイダノ)ニ二三度用ヒヨ大形(カタ)可治(ス)又頻(シキリ)ニ腹痛せハ牡丹皮ヲ加ヘ味噌湯ニテ用ユ是ヲ大補丸ト号ス

五六 又方當皈ヲ増シ三色薬ヲ用ユベシ夏ハ生ヲ増シ冬ニハ黒焼ヲマシ又サハラノ時ハ炒ヲ増シ赤シブリノ時ハ生ヲマシ古血ノ加減肝要(カンヨウ)ナリ又曰芍薬炒白朮倍陳皮ヲ加ヘ用ユ

齋按スルニ此治方甚悪シ凡泻利ノ症ニ當皈ナドノ溼アル薬ハ忌ヿナリ又三色薬ハ黄栢生ト炒ト黒焼ト等分ノ方ナレバ産後ニ宜キ方ニ非ズ水泻ハ常ノ泄泻ノ主方赤シブリハ痢病ノ主方ヲ考ヘ療治スベシ

五七 薄黒ク子バキ物ヲ吐ク叓アリ本味當皈ノ身ヲ去リ尾ヲ大ニ用牡丹皮大延胡索大三貼用ヒテ其後ニハ本味ニ宿砂大加ヘ人参ヲ減ジ用ユ但シ参代ニ斉寧ヲ用ユルヅ

又手ノ内ニ塗リ薬可ナリ薬方ノ中ヌリ薬出

五八 腰ヌケ手足不叶ニハ前後氏本味ニテ療治スベシ

五九 久シク腰拔ケ煩フニハ本味バカリ可用上焦ニ血アルニハ本味ノ内當皈沉香倍下焦ニ血アルニハ本味ノ内川芎芍薬ヲ倍シ用ユ又曰本味ニ牡丹皮少加フ但シ悪血ノ心ナクハ牡丹皮ヲ不加又付薬アリ口傳ナリ

六十 腹痛ニハ黒大豆皮ヲ去リ炒一目葱根一目右二味ヲ

煎ジ用ユベシ

六一 胸ヲ痛ミ煩フ支アリ本味ニ人参少ヒカヘ當飯沉香ヲ增テ用ヒヨ又ハ苓菜ヲ增テ本味バカリニテ療治スヘシ又曰人参炒リ可用又曰胸痛悶絶シ又ハ咳シ痰膿血ヲ吐スルコアリ或ハクサキハ大方肺癰ナリ大事ノ病ナリ本味ニ天門冬ヲ加ヘ用ヒヨ又曰胸ニ痰ツカヘ或ハ氣順行セス胸ヲ痛ムハ本味ニ人参ヲ去リ陳皮枳殻ヲ加フベシ

六二 腰痛ム支アリ香附子炒加ヘ甘艸白朮ヲ增ス又様子ニヨリ延胡索ヲモ加フ又曰牛膝ヲ加フ

六三 鼠ヲ痛ムコアリ古血カタマルカ故ナリ先ツ苓菜川芎ヲマシ五六貼用ヒ其上ニテ當飯沉香ヲマシ苓菜川芎ヲヒカヘ用ヒヨ

六四 口中ヲ痛ムコアリ不苦産ノ時難ニ思ヒ強ク齒キリスルニ依テ痛ムナリ當飯沉香ヲ增シ用ユ

六五 咽痛ムニハ本味ニ陳皮香附子ヲ加ヘ當皈沉香ヲ倍シ川芎芍藥ヲ減ジ用ヒヨ大事ナリ

六六 股足痛ムコアリ當皈沉香ヲ增シ用ユ血上ヘ上ル故ナリ必ス手ニ熱氣アルベシ

六七 筋ヲ痛ムニハ本味當皈ヲ倍シ用ユ

六八 身骨ウヅクハ濕氣ナリ本味ニ甘草ヲ倍シ陳皮香附子三分一加ヘ用ヒヨ

六九 産後中風ニ本味ニ羌活獨活防風ヲ加ヘヨ惣シテ産後冷ルコナカレ

七十 風ホロせノ樣ナル者出ルカ或ハ小瘡イヅル支アリ皆古血故ナリ其心得ニテ療治スベシ

齋按スルニ是又一概ニ瘀血ニ不可皈風症モ有ベシ

七一 風腫ニハ本味ニ人參ヲ減シ香附子ヲ加ヘ用ユ又痛風ニハ本味ニ白朮ヲ倍用何レモ止痛散ヲ可引又悪血ニ

テ右ノ如ク痛ムコアルニハ本味ノ當皈沉香ヲ倍シ用ユ
ヘシ（止痛散奥某方ノ部ニ出）

七二 風毒ニハ本味ニ紅花大加ヘ用ユ又蒼朮ノ丸薬（蒼朮丸奥某方ノ部ニ出）ヲ間々白湯ニテ可用又引茶ニ同シク止痛散ヲ用ユ又曰風腫風毒ヒ本味ニ紅花中香附子小加ヘ扱又止痛散ヲ水ニ化シテ引ベシ不治バ加ヘタル香附子ヲ去リ牡丹皮大加ヘ用ユ若シ無効トキハ可斟酌

七三 産後腫氣ノコト足ヨリサスハ不苦上ヨリサスハ大事ナリ但シ上ヨリサスニハ本味ノ川芎五倍シテ用ユ下ヨリサスニハ當皈五倍シテ用ユルゾ口傳ニ曰腫氣引タル跡ノ堅キハ惡シ常ノ如ク和カナルガヨシ又曰本味ニ蕘朮香附子紅花ヲ加ヘ用ユベシ

七四 同腰ヨリ下腫ルコアリ是モ本味ニ當皈沉香ヲ倍シ可用又腰ヨリ上腫ルニハ芍薬川芎ヲ倍シ用ユベシ

七五 子ヲ下シソコナイ煩フ本味バカリヲ用ヒテヨシ効ナクハ本味ニ犀角キリンケツヲ加ヘ可用ユ又艾葉ヲ煎ジ其汁ヲ用ルモヨシ

七六 産後ニ味噌氣嫌フヿアリ悪血ナク本味ニ牡丹皮紅花各小ヲ加ヘ又其間々ニ黄ノ三色薬白湯ニテ少シヅヽ用ユベシ

七七 産後ニ呵欠シテ腮ノ離ルヿアリ止痛散ニ川芎少加ヘ茯苓ノ煎汁ニテ塗ル扨又本味沉香甘草ヲ倍シ用ユベシ

七八 同呵欠シゲク涙多ク流シ煩フニハ本味ノ沉香倍其間々ニ関ノ一味薬少シヅヽ可用ユ

七九 シヤクリ出ルハ惣ジテ冷タル故ナリ本味ノ内當皈ヲ倍シ酒ヲ過スベシ熱症ハソレ〳〵ニ加減スベシ前ノ噦ノ部ノ薬方可考

八十 舌ヲ出シ湯水ヲモ不飲ウカ〳〵トシテ煩フヿアリ氣

ノ労(ツカ)レ又悪血故ナリ雞産ノ加減後ニ記スシテ可用其後本味ノ内皈身ヲ去(サ)リ尾大川芎牡丹皮良姜各大芍薬小其外同前右ノ加減三貼用ヒテ後ニ本味ノ白朮小遠志茯苓中加ヘ二三貼可用其後養生ノ薬本味ニ山茨中加ヘ用ユベシ又青皮少加ヘヨ

八一 心胱(ホシ)ウカヽトシテ口(クチ)ヲアケテ言(モイ)フ事ナク二年三年モ煩フ事アリ本味ニ牡丹皮少加ヘテ用ヒ其間々ニ関(セキ)ノ

一味薬ヲ湯ニテモ又ハ本味ノ煎湯ニテモ可用又其後口上ノ一味バカリヲ用ユベシ但シ唯授(ユイジユ)一人ノ秘傳薬トハコノ事ナリ

八二 産後労瘵(ラウサイ)ノ如ク煩(ワヅラ)フニハ本味ヲ三貼用ヒ血アルハ面ニ田虫ノ如ク吹出ルナリ古血ヲ可下ス

八三 産後ニ髪ヌケテ跡白クナルヿアリ本味ノ内ニ紅花香附子各大加ヘテ二三貼用ヒフノ後ハ本味ノ川芎當皈

ヲ倍シ可用悪血ノ心アルニハ牡丹皮中ニ加ヘヨ又曰カミ拔ルニ大事ノ事アリ本味當皈五倍シテ川芎ヲ減ス

八四 何トナク十日十五日モ人心ナク眠ル事アルハ氣ノ労レ又悪血故ナリ但シ氣遠ク身暖ナル者ハ少モ不苦前ニアル養生ニテヨシ労レタル病人ナラハ人参ヲ小ニシ或ハせイ子イニ代ヘテ佳ナリ成程緩々ト療治スベシ

八五 産後胸ニ熱氣アツテツカヘ煩フニハ本味ノ人参川芎ヲ減シ當皈沉香ヲ倍せヨ不治ハ胸サワギノ処可考

八六 同手足冷ヘテ火ニアブレ尼冷ルヿハ古血煩フナリ本味ニ古血下ス心持シテ用ユベシ

八七 手足暖ナルヿ有ニハ下蕉ヲ湯ニテアタヽメヨ

八八 面赤ク手ニ熱アリ足冷ルハ上ミ実スル也早ク上ヲ下スベシ本味ニ川芎牡丹皮ヲ加ヘヨ又血ヲ下ス療治ヨシ

八九 足冷ヘ面ホトフリ耳鳴ルハ本味ニ地黄桂心山梔子ヲ加ヘ用ユベシ

九十 産後コトノ外痩(ヤセ)ル妄アリ古血故ナリ本味ニ牡丹皮炒加ヘヨ生ハ悪シ又曰食減(ゲン)ジ或ハ腹痛本味ニ知母黄柏少加ヘ又當(トウキ)ヲ倍シ地黄地骨皮ヲ加フ

九一 横寝(ヨコタハ)ナラヌハ古血ノ謂(イヒ)也本味ニ牡丹皮ヲ加ヘ可用

九二 帯トキニ本味ニ當皈沉香大々加ヘ用ヒヨ

九三 手ノ内ニ腫物(シュモツ)ノ出ルヤウニ腫ルヽ妄アリ子宮(ツボ)ノ塞(フサ)リ白粥(シラカユ)ノ汁ニテ付ベシ必ス引クナリ内薬本味直(スグ)ニ用ユベシ但シ付薬ニ関(セキ)ノ一味モヨシ同粉薬モ用ヒルゾヌ本味黒焼モヨシ産前後尻同前ナリ

九四 腎(ホゾ)ノ下天目程ニ腫レ痛ニハ本味ニ我ボヲ加ヘ用ヒヨヌ曰腎下大ニ腫物イヅル妄アリ牡蛎(ボレイ)ノ粉ヲ糊ニヲシ合テ廻(メグ)リニ付其上ニ綿ヲフタニシテ廻リヨリシメ寄(ヨス)ル

トキ腫ノ頭ニ灸カ針ヲシテ後ニ吸膏薬ヲ付ベシ内薬本味ニ白芷ヲ加ヘ用ユ膿出ガタク長引クハ四物湯ニ連翹白芷ヲ加ヘ用ヒ其後又木香乳香麝香丁香甘艸ヲ加ヘ用ユ是則五香也

九五 腎ヨリ膿イヅルコト産前ノ部ニ記ス同前ナリ

九六 子瘡々生ムル者ハ古血アル也炒牡丹皮ヲ用ユ當歸ノ血ニハ生牡丹皮ヲ用ユ新古交レハ二色ノ牡丹皮ヲ可レ用

九七 食違アラバ何ナリ圧飲シタル物ヲ黒焼ニメ加ヘヨ用ユベシ

九八 腹中堀リアルニ紅花桃仁芍薬我朮方末ヲ本味ニ加ヘ用ユベシ

九九 乳腫レ痛ムコトアリ本味ニ白朮ヲ倍シ牡丹皮中加ヘ用ユ扨又関ノ引薬湯ニ化シテヌル外科ノ付薬ナドハ悪シキ也又カラムレノ根洗ヒコワゲ味噌少加ヘツキヽぜ付クヘシ

百 乳不足ニナル事アルニハ本味白朮ヲ倍シ二色ノ牡丹皮ヲ等分ニ合シ小ニ加ヘ甘酒ニテ可付又砂糖酒ニ化シテ用ルモ佳ナリ又曰本味括婁仁ヲ加ヘ濁酒ニテ可用

百一 乳不出ニ赤犬ヲ黒焼ニシテ少ツヽ白湯ニテ用ユ

百二 腹ノフトル事アリ古血下ラスシテナスワザナリ古血下スベシ但シ古血下ス圧血ハ不下シテ大小便ニスヽ色ノ物下ル也又古血ニテ腰ノ上廻リ痛ミ五六度ツヽ氣ヲ取失フ事アリ先本味ヲ五六貼用ヒテ扨牡丹皮炒ニ色ニシテ本味ニ加ヘ用ユレバ古血皆下リ則治ス又本味バカリモヨシ氣労レタ人ニハコレヲ用ユルゾ

百三 産シタル女早ク使ヒ度トキハ本味ニ血竭ヲ焼返シテ三分一加ヘ酒ニテ二貼ホド用ユベシ其下ヽ起テモ血上ル事ナシ去ナガラ大事也

百四 産後母ノ痘瘡ニハトカクサヽシテヨシ本味ニ沉香

ヲ倍シ陳皮ヲ加フベシ

百五 息(イキ)クサキハ皆腰氣(ケ)也

百六 産後腰氣(コシケ)ノ妄ヨク炙(ラ)リタル牡丹皮生ノ延胡索ヲ本味ニ加ヘ可用必ス腰氣下ルナリ灸所アリ後ニ記ス又曰腰氣ノ妄産後養生ノ間ハ右ノ如クナリ常(ツネ)ハ経水(ケイスイ)ノ内ニ悪血又月水ヲモ下サセテヨシ但シ腰多ク痛ムトキハ七八日モ古血下シテ腰氣劇ヲ用ユベシ中程(ホド)ニ痛ム時ハ四五日モ可用又少シ痛ム時ハ二三日モ用ユ必ス経行(ケイカウ)ノ内血ヲ可下(クダス)滞(トドコヲ)レハ其後ハ本味ニ牡丹皮炒テタケクラベニ合可用生ハ悪シ惣シテ婦人月水妄行(バウカウ)ハ其身冷(ヒ)ヘタル故ナリソノ心持ニテ加減セヨ(ヌサシ茱萸部ニ出)

百七 産後白帯赤帯ニテモ下ルヲ留(トム)ル心持ノ事病人弱ク脉沉細(チンサイ)ナル時ハ本味一両日モ可用氣ヲ調(トノ)ヘテ扱古血ヲ下シ其後止メテヨシ此薬ニハ本味ニ牡丹皮生炒二色ニメ

本味タケクラベニ合セ可用是古血下シナリ其後止メ薬ニハ本味ニ血竭三分一ノ三分一加ヘ止メルナリ止ル程五日モ六日モ用ル也若不止バ血竭ヲ倍スベシ口傳ニ曰血ヲ止ルハ先血ヲ下シテ後止ムベシ如此せ子バ血止メテモ煩フ也又曰白滞赤帯圧土クレ鳩黒焼ニシテ茶一服程ツヽ白湯ニテ用ユベシ

百八　産後氣大過ナル人長ク煩ヒ或ハ労瘵ヲ病ミ俄ニ氣ヲ取違フ者ニハ本味ノ氣薬去リ陳皮香附子當皈熟地黄各大芍薬中川芎中白朮少甘中少ヲ用ユ熱甚ク狂フニハ荊芥大々ニ加ヘ時々汗ヲトルベシ

百九　同小氣ノ人物ヲ苦ニシテ血ノ道何ホド氣違フ圧當皈地黄各大芍薬川芎各中沉香人参各少若シ脾胃弱キ人不食せハ陳皮白朮少加ヘテ可用病人ノ気ニ應シテ丸散煎何レニテモ與フベシ

百十　産後瘡ノ支悪血食傷ヨリ出ルモノ也或ハ筋骨シヽミ周身癰(スカ)ミ動揺(ドウヨウ)ナリ雉(ガタ)キヿ等アリ其時ハ本味ニ三色牡丹皮ヲ加ヘ五六日用ヒテ其後本味ニ大黄等分合一日五六度バカリ七日用ユ夫レニテ効(シルシ)ナクハ又本味バカリ一両日用ヒ其後右本味ニ大黄等分ニ加ヘタル中ニ二色ノ牡丹皮多ク加ヘテ二三日用ヒ其後紅花散(茉方ノ部ニ出)ニ大黄(大)加ヘテ一日用ヒ可下(ス)又実症(ジツシヤウ)氣血盛(サカ)ンナル人ニハ大黄(大)ニ加ヘテ二三日可用コノ療治ニテ大形ヨクハ右ノ三貼ニ貼ニシテ皂角刺一目割ミ如常煎シテ其湯ニテ右散薬暁方(アケガタ)ニ可用ユ必ス小便ニ血下ル者ナリ又惣シテ紅花散用ユル内ニハ小便黄色ナル物ナリ右ノ療治後本味ニ白朮少シ増シ可用ユ養生ノタメ也或ハ身フクルヽ支アリ関(セキ)ノ粉薬ヲヌル湯ニ化シテ可引ク但シ内薬バカリニテモ治スルヅ

百十一 永血赤白共本味三色牡丹皮中加ヘ緩々ト用ヒ其後ハ血竭○程ニ丸ジテ本味ノ間ニ白湯ニテ用ユルナリ又年久シキニハ本味ニ三色ノ牡丹皮中延胡索中加ヘ可用又其後血竭可用又良姜少加ヘ用ユベシ夫ニテ不治ハ本味ノ内口上ノ一味バカリヲ可用

百十二 産前後圧問薬ノ夏ムサくト煩フ者ニ先本味与ヘテ見ヘル血枯レタル者其身温マリ能シト云者ニハ本味デ

療治スベシ本味ヲ用ヒテ頭周身カユクフクルヽト云ハ古血アリト心得テ本味ニ牡丹皮加ヘテ可ナリ口傳ニ曰血枯タル者ハ脉消ル如ク沉ナリ血アル者ハ脉一動数アツテ浮大也

百十三 産門ニ疵瘡ニハ上々ノ酒椰子ノ油右二味煎シテ陰門ヲ洗フ又大栗薄ク片ギ日ニ干シ粉ニシテ捻ル

百十四 産後禁物之事

海草類　茸ノ類　木実類　胡椒　四足類　蕎麥

鯢　鳥 但シ雞卵ハ不レ苦

右ハ養生ノ間禁レ之ヲ

河魚　鍋炭　油氣　梨子　拽茶 但シ古茶ハ不レ苦

中條流産科全書終

中条流小兒方

○子生ルヽト其侭乳ヲ呑スル叓悪シ其故ハ早ク乳ヲ呑スレハ其子或ハ夜啼シ瘡草ナド出ルモノ也是生ルヽ時悪血ヲ呑ム故ナリ生レ出ルト其侭指ニ絹ヲ巻テ口ノ中ニアル古血ヲヌグイトリ咽マデ指ヲ入レ子。湯呑ミタルヲ吐セ其後用ル薬白朮甘草香附子 各等分 右調合シテ絹ニ包ミ振出シ口ヘイカ程モ塗ル也黒色ナル大便ヲ不下

先キニ乳ヲ呑スベカラズ口傳此薬夜啼ニ用ヒテ佳瘡ニモ用ルヅ

○子生レテ其侭呑スル薬　大黄　甘草　山茨菰（小根白キヲ取）　キザミ各等分　右熱湯ニ振出シ用ユルヅ此ハ悪血ヲ吐スル為也

○子生レテ声ヲ不上ニハ　藍葉　白朮各等分　振出シ口ノ内ヘ塗ルベシ右ノ二味ヌル湯ニテ振出スベシ又曰ク藍ノ玉　甘草各等分ヲ用ユ

○生レ子ニ用ル薬　甘艸　白朮　生牡丹皮各等分　右絹ニ包ミ振出シ用ユ

○子ヒタト腹ヲ下スニハ本味ニ三色薬加ヘ母ニ用ユベシ

○子夜啼ニハ　當皈　石膏　川芎　甘草各等分　右為末母ノ乳ニ付テ與ヘ母ニハ本味ヲ可用ユ

○キレ草ノ薬（キレ草ト云ハ身ニモドコニモ出ル者ナリ）　イモリ黒焼　胡麻ノ油ニテ煉リツクル

○五疳ヒニ用ル薬　イモリ黒焼　末シテ丸シ湯ニテ用ユ

○ハスノ葉　百合根　桐木ノアヽハタ

右ニ味押合セハスノ上ニ付ル

○ヲトミ子薬　白朮　黄連　青皮　漆　肉桂

茯苓 各等分　枳殻 大　芍薬　瓜蒌仁

咽ツヨク渇クニハ

麥門ヲ加ヘヨ吐逆アラハ丁子ヲ加ヘヨ

○二生湯　鷦風ヲ治ス　黄連　百合　白朮 各二分

遠志 一分　沉香 二分　肉桂 一分　茯神 一分　姜蚕 炒少漆焼

○丁子圓　虫積霍乱ヲ治ス　丁子　肉桂 各五　干姜 三ヌ

宿砂 五ヌ　甘草 一ヌ　陳皮 三ヌ　香附子 三ヌ

右末シテ蜜ニテ煉リ用ユ

中条流小兒方終

板坂流小兒方

○小兒生レテ二七日ノ間胎熱ニテ大便不通ニハ

牡丹皮 黒炒生 厚朴 白朮 甘草

○同一二日ノ間腹中鳴リ一身熱シテ不安ニ

芍薬炒 白朮炒 厚朴 甘草 一方ニ桔梗ヲ加フ

後重ニ木香ヲ加フ或ハ紅花ヲ加フ

○小兒五疳ヲ治ス 益母ノ絞汁服之ヲ

○清涼飲子 小兒血脉壅実シ腑臓熱ヲ生シ頰赤ク渇多ク五心煩躁シ睡卧不安四肢驚掣乳哺ヲ反シ不時寒温失度血氣不理腸胃不調或湿滞欲成伏熱或壯熱不歇欲成驚癇ヲ治ス又風熱結核頭面瘡癤目赤ク咽痛ミ瘡疥ノ餘毒一切壅滞并服之ヲ

當皈 甘草 芍薬赤 大黄各等分

右如常煎ス

○加減丁香散 小兒痢病服之有効

白朮二両 厚朴 陳皮 茯苓 芍薬 宿砂各二分 干姜三分 丁子 甘草各一分

右細末毎服一匁 塩湯温湯ニテ用ユ

○豆蔻散 丹家秘薬 通用赤白痢甚効アリ

人参三分 宿砂一両 干姜一両 甘草二分 白芥子皮二両

右五味末メ毎服三匁二匁一匁温湯或米飲佳也

秘ニ曰肉豆蔻ヲ加フ又赤痢ニ白芍薬ヲ加ヘ熱アルニ干姜ヲ除キ芍薬茯苓ヲ加フ

○木香散 痢病秘薬 宿砂 干姜各二分 人参二分 甘草一分 罌粟一両 肉豆蔻二分 丁子一分二朱 木香一分 厚朴一分

右末ノ米飲ニテ下ス

○白中散 赤痢變白ヲ治ス 厚朴 罌粟 百合各一両 甘草五分 白朮一両 茯苓 陳皮 肉豆蔻各半両 右末ノ米飯湯下或豆蔻ヲ去テ芍薬ヲ加ヘ百合ヲ去テ干姜ヲ加フ

○万理圓 虫腹胃痛及痢病ヲ治ス 楊梅皮 百合 葛根各等分 右末ノ丸ス梧桐子ノ大サ温湯ニテ十五丸服ス

一方 白朮 厚朴 香附子 苦参ヲ加ヘテ黄金丹ト名

○加減理中散　虚冷ヲ扶ケ痰飲ヲ消ス大人小児産後用之　白朮五両　人参　干姜　芍薬各二両　桔梗三両　胡椒一両　甘草二分　右末ノ毎服二匁又胡椒ヲ去リ川椒ヲ加フ

△以上六方老若男女通用也

○加減粮臓湯　泄泻腹痛溏泄腸胃虚冷大人小児男女通用　木香　桂心　訶子　芍薬　宿砂　當皈　川芎　人参　肉豆蔻各三分　丁子一分　御米殻三分　甘草二分　右煎服一方　白朮　厚朴　茯苓　干姜ヲ加フ

○度嶂散　小児風寒挾虫或ハ元日屠蘇酒ト服ス時疫ニ甚効アリ大人小児通用　麻黄　山椒各三分　細辛　防風　桔梗　干姜　白朮　桂心各二朱　右細末ス

○惺々湯　小児風熱瘡疹傷寒時氣ヲ発表ス多眠咳嗽喘鼻塞ス、涕タルヽヲ治ス

人参　白朮　茯苓　桔梗　細辛　萎根各一分　甘草二朱
右姜三片水煎
○阿伽陀圓　茜根去心　山椒湯洗　百合　彭金麁皮ヲ去
紫且各一両　右細末ノ丸ス又七種ノ加菜ト云ハ　人参
地骨皮各三分　又九種ノ加菜　木香　丁香各三分　又甘草
一分　右細末蜜丸△痢病者ニ蓬棗ト生姜煎去滓用九種ヲ
大佳也

○普濟散　一切痢病ヲ治ス　厚朴一両　甘草三分　御米殻
五両裏ノ筋ヲ不去一夜酢ニ浸シ干姜一両　石榴皮一両　以上
酢ヲ去リ香色ニ焙ル
末シテ子バキ飯湯ニテヌルダメ用之ヲ
口傳加減方○冷痢ニ干姜ヲ倍ス○傷寒熱痢ニ干姜ヲ去
烏梅ヲ加フ○虫疳痢ニ黄連ヲ加フ○赤痢ニ艾煎ニテ用
○痔血ニモ同シ○白痢本方用之肉豆蔻ヲ加ヘテノ疼ニ可
可秘○吐逆ニ白梅花藿香ヲ加フ○労損虚損内損ノ痢ニ

阿膠人參ヲ加フ○噦噎ニハ柿実ヲ加フ或ハ楠又丁子ヲ加フ○酒損痢丁子ヲ加フ○咽乾燥ニ括蔞根烏梅少 葛根ヲ加フ○目眩ニ人參茴香ヲ加フ○寒痢ニ桂心ヲ加フ○不食痢宿砂白豆蔻ヲ加フ○胸塞ニ枳実ヲ加フ以上口傳ナリ

○三神圓 虚冷シボリ腹夜頻ナルニ草烏頭生炒黒右等分麪糊丸毎服二十丸米飲下ス

○豆蔻散 肉豆蔻一両 厚朴 御米殻各二分 干姜 甘草各二分 右末ノ飯ノトリ湯ニテ下ス

○宿御湯 諸痢殊ニ虫添発スルヲ治ス 厚朴 茯苓 宿砂 干姜各一両 御米殻三両 右末ノ米湯ニテ下ス

○駐車圓 諸血痢ヲ治ス 阿膠 黄連各三両 當飯一両二分 干姜一両 右末ノ阿膠ヲ酢ニテ煉○程ニ丸シ二十粒可用

○小兒下痢妙薬 大人ニモ佳也 艾ノシベ 蝉退 御米殻

甘草各等分右末メ糊丸口傳ニ曰御米殻ハ鹿皮ノ肉ノアヽ肉ヲ片ヘキ取リ用ユ是秘事ナリ

○赤痢腹痛有熱ヲ治ス　百合炒　御米殻　黄芩　黄連各二分　甘草三朱　右水煎或ハソせ小豆　百合　甘草　石三味末メ久シキ梅干ノ肉ニ丸ス朱砂ヲ衣ニマヽ又葛根ノ粉モ佳ナリ但シ三日ヨリ内ハ不可用又曰御米殻煎湯ニテ調下ス

○厚朴散　前症ヲ治ス　御米殻　厚朴　各五両　人参　百合　甘草　各一両　右末メ米飲下

○参苓散　前症ヲ治ス　陳皮　御米殻　各二両　肉豆蔻二分　木香一分　茯苓二分　人参　扁豆　各三分　右末ス

○丁未散　小児虚滑（キョカツ）泻痢不止ヲ治ス　厚朴　訶子　各五分　史君子一ヌ　丁香一ヌ　白朮　青皮　茯苓　各三ヌ　甘草一ヌ　右末メ米湯調下ス　右各痢方大人小児通用剤也

別錄口傳之茶方

攝陽　戸田齋　刪補

○枳殻散　枳売（黒焼）十匁　炙甘草一匁

右末シテ薄茶一服ツヽ一日ニ二三度白湯ニテ用ユ此レハ産前養生茶ナリ孕ミテ五六月ノ比ヨリ此茶用ユレハ難産ノ患ヘナシ併シ人ニ依テ少シツヽ可用不足スル故ナリ

○止痛散　山皈来　白小豆各等分　肉桂少　右末シテ生姜ノ煎汁ニテ可付但シ腮(アギト)ノ離(ハナ)レタルニハ右ノ内ヘ川芎少加ヘテ茯苓ノ煎汁ニテヌルベシ

○理中散　手心(テノウチ)ニ塗(ス)ルト前ニ記ス薬方也　紅花小　縮砂大　右末シテ合セ薄糊(ウスノリ)ニテ塗(ヌ)ルゾ子ブリテモヨシ

○紅花散　紅花大　香附子中　茯苓中　牡丹皮小　右末シテ薄(ウス)茶一服程ヅヽ白湯ニテ用ユ

○快後散　苻中茱トモ車ヒシキ圧云　一切産後ニヨシ　人参　當皈　川芎　宿砂　車前子　沢瀉　沉香　黄芩　括蔞仁(クハロニン)各一両　紅花一両　大黄　香附子各一両　陳皮　柴胡各三分　甘草少

○調経湯　一名生氣散　産後ノ用薬也　人参　陳皮　熟地黄　當皈　肉桂　干姜　黄芪　芍薬　右水煎

○早生(ハヤメ)秘薬　熊爪ヲ鮫(サメ)ニテ摺(ス)リ粉ニシテ本味ニ加ヘ用ユ　死胎(タイ)逆産何レモ生レカ子ルニ此秘薬紅花大ニ加ヘ用ルゾ

○調榮湯　産後ノ諸病ニ加減シテ用ユベキナリ
人參　木香　各一匁　當皈　香附子　陳皮　紫檀　川芎　熟地黄　縮砂　牡丹皮　茯苓　各五匁　甘草一匁　右水煎
○澤蘭湯　産後一古血下ルコト少シ血上リ血暈スルヲ治ス
澤蘭二匁　當皈　川芎　紅花　荆芥　各一匁　牡丹皮五分　右水煎服ス
○人參湯　産後二古血下ルコト多クシテ血暈スルヲ治ス

當皈　熟地黄　各一匁　川芎　芍藥　陳皮　人參　各五分　甘草　右水煎シ可服ス
○補氣湯　産後氣虚シテ心ヲ労シテ目マイスルヲ治ス
人參　當皈　川芎　各一匁　陳皮五分　甘草少　右水煎服
○養血牡丹皮湯　産後古血不下ラ胸腹クルカ如ク痛ミ発熱スルヲ治ス　皈尾　芍藥　各二匁　牡丹皮　延胡索　桂心　各一匁　甘草少　右水煎服ス　古血不下腹痛強クハ桃仁

没薬　乳香　各二匁　紅花　香附子　各五匁　加ヘ可用

○延胡索湯　産後ニ血堅リテ腹ニアリ少シモ不下腹甚ダ痛ムヲ治ス　延胡索　當帰　各一匁　琥珀　蒲黄炒　各八分　桂心　二匁　芍薬　五分　紅花　二分　右粉ニシテ酒ニテ用ユ

○増損四物湯　産後卜寒熱シ瘧ノ如ク小腹痛ムヲ治ス　當帰　川芎　人参　干姜　芍薬酒　各等分　甘草　少　右水煎ジテ服ス　古血有テ腹強ク痛ムニ牡丹皮　紅花　柴胡　各等分

加フ　風引タラハ加味柴胡湯ヲ用ユベシ　當帰　川芎　熟地黄　柴胡　白朮　荊芥　各二匁　人参　白芷　防風　肉桂　各一匁　甘草少　右生姜入水煎シテ可服ス　熱不去ニ　牡丹皮　黄芩　梔子　麦門冬ヲ加フ

○増損柴胡湯　産後ニ早クヨリ心ヲ労シ頭痛発熱シ汗出テ背フシく痛悪寒発熱シ食不進シテ咳嗽スルヲ治ス　柴胡　四匁　人参　半夏　陳皮　川芎　白芍薬　各三匁　甘草少

姜棗水煎

○順血湯　産後古血不盡遍身手足腫ルヽヲ治ス　紅花

馬鞭草　白茯苓　瞿麥　羌活　香附子各三匁　肉桂　琥

珀　陳皮各一匁　右水煎服

○益母湯　産後血崩スルヿ甚シテ不止ヲ治ス　當歸

川芎　人參　白芷　升麻　續斷各一匁　熟地黄　白芍菜

益母草各二匁　甘草少　右姜煎服

○振菜　産後血道血暈ヲ治ス　人參　川骨各二匁　肉桂

桂心各一分　茯神　丁香各一分　甘草少　右絹ニ包ミ振出シ用ユ

○白菜ノ方　米ノ寒晒ノ粉二合　葛粉五勺　滑石一両

右細末シテ酢ニ浸シ取上ケ乾カスベシ

○同又方　餅米一合　山芋一夜酒浸ス一匁六分　粳米白米一合　トウボシ

一夜酒ニ浸シ一合　右末シテ寒ノ水ニ七日浸シ取上ケ又酢ニ七日

浸シ粉ニシテ用ルナリ

○白(シロ)薬血道(ケノミチ)薬ノ方　香附子炒大　人参小　胸痛ニハ少シ炒　寒晒大々
甘草少　右細末病人ノ症ニヨリ口傳多シ
○黒神散　古せアサ　益母草　アラ各一両　カラ半両　十八
角豆半両　箱根草一両　テンシユ一両　白薬一両　甘草少　右九味
調合シテ酒ニテモ白湯(サユ)ニテモ用ユ但シテンシユハ酸漿(カタバミ)
艸根也
愚曰黒神散方書ニ出ツ此方ハ中条ノ家方也故ニ和名

秘名口傳ニスル物アリ
○三味小切紙ノ方　真名(クロヤキ則蛇脱ノコヽ)　雞ノ羽黒ヤキ但油鳥佳也　赤牛
ノ糞　右三色黒焼ニシテ用ユ
○二味二両小切紙ノ方　紫河車黒ヤキ　コツプ銅銹ナリ○トリヤウハ
銅三十目ヨクミガキ酢三二日二夜ヒタシトリアゲ陰干ニシテ上ヘ出タルアカヲコツゲ用ユルナリ　右シカシヤ黒焼
二両ノ内ヘコツプノ花ヲ二分入レテヨシ　難産生(ウヽ)レカヌ
ルニ本味ニ二味二両三味二両ヲ合せニ七(サジ)入ルベシ半産

モ同シ惣シテ産前何ノ病ニヨラズ生レカヌルニ用ヒテ
妙ナリ

○催生(サイセイ)神應散　難産横産逆産ヲ治ス度々効ヲ得タル方
ナリ可秘(ス)々々　車前子一匁　葵(キ)子　白芷各三匁　枳殻二匁
牛膝二匁　芍薬　皈尾　川芎各一匁　紅花　大腹皮各八分
或ハ桂ヲ加ヘ水煎

○加減四物湯　血定ル薬也　當皈　川芎　地黄　芍薬
紅花　牡丹皮　細辛　牛膝　枳殻　沢蘭　人参

○産後補薬　黒雞一羽　水三舛入レサハくト煮立テ上
ニ立タル洙(アハ)ヲ扨(シヤク)ニテスクヒ捨テ其後　肉桂　丁子　宿
砂　紅花　胡椒各二匁　胡燕洞蘆(コヱントロ)一両入レ右ノ水ヲ二升ニ
煎シテ呑(ノ)ム度(タビ)ニ塩少シ加ヘ朝夕(テウセキ)少シ宛(ツヽ)用ユベシ

○白之本味ノ方　人参　沉香　茯苓　紫且　陳皮
木香　大黄　川芎　熟地黄　芍薬　白芷　當皈各等分

右十二味細末ス又水煎服又　藿香　宿砂　甘草ヲ加ヘ
合十五味也　四季加減アリ産前後ニ春ハ皈ヲ倍夏ハ
芍ヲ倍ス秋ハ芐ヲ倍ス冬ハ芎ヲ倍ス▲長血白血ニ用ル
時ハ先初メニ十貼程ハ紫且ヲ去リ牛漆ヲ加フ此カゲン
ハ下ル也止メ度時ハ紫且蒲黄ヲ加フルヅ▲常ノ加減法
▲熱氣アルニハ柴胡枳殼ヲ加ヘヨ▲大熱ニハ前胡柴胡
知母ヲ加フ▲血下リニ蒲黄紫且ヲ加フ▲腫氣ニ大黄芍菜

ヲ加▲筋引ツルニ黄芪ヲ加▲頭痛ニ細辛ヲ加フ又川芎
白芷ヲ加▲不食ニ宿砂大厚朴白朮ヲ加▲面色赤ニ車前
子ヲ加▲下痢ニ大黄ヲ去リ當皈ヲ加フ▲氣ヲ煩フニハ
人參一倍入レ用ユ▲冷痛ニ白朮干姜ヲ加▲小便血下ニ
鬱金烏梅ヲ加フ右ハ白ノ本味加減法也

○蘓人湯又散ニモスベシ　當皈二両　挾榔子三両　川芎一両　莪朮一両
右五味口傳ニ上ト云次ノ四味ヲ下ト云　丁子三両　黄芩三両　白朮一両　甘草一分

塊強キニハ上バカリ等分ニ用ヒ常ニハ上下圧用ユ▲産後早ク蘓人湯ヲ上バカリ用ユレバ血不上常ノ時デモ用テ不苦▲氣上リタルニハ下バカリ煎ジ用ユ▲大血ハシリ或ハ長血ニハ上下圧ニ合煎服ス急ニ止メ度ハ大包ニメ用ユ連々ニハ小包ニシテ用ユルゾ▲下血灸所ナドヨリ血ノハシルニヨシ▲急病ノ時ハ煎薬ニシテ用ユ可秘々々

○天得湯　癩瘡ヲ治ス　黄芪　川芎　地黄　丁子

烏蛇　白朮　藿香　沉香　甘草　牽牛子　山梔子

柴胡　白芷　赤芍薬　香附子　挾榔子各二匁　升麻各四匁

人参一匁　甲二十目穿山　大風子百十五匁　以上

○解泄方　大黄二分　胡椒三粒　皂刺二分　巴豆一粒

丁子三枚　以上末シテ丸トス

○血下薬　大黄三匁　蕎麥粉二匁五分　右二味酒ニテ用ユ

但シ霄ト夜半ト曉ト三度ニ用ユルゾ

○握(ニギリ)薬ノ方　當飯 五分　紅花 三分　丁子 二分　藍玉 二分
良香 二分　牡丹皮 二分　右調合
○是程ニシテ絹(キヌ)ニ包(ツヽ)ミ
手ノ内ニ入置(シヲキ)テヨシ
血塊(クツクハイ)古血ナドハ本味用(ヒ)テ後可指(サス)モシ下リカ子バ二ツモ
三ツモ入替(シカヘ)テヨシ下ル物ハ白キ物モ赤キ物モアル也
○同サシ薬ノ方　古血下シ圧又子クサリ薬トモ云
嬢胎ノ女ニ用ユルヿ勿レ

挾擲子 五分　粉ニシテ薄苛ノ煎ジ汁少　丸ジテ水銀少
右ノ丸薬ノサキニサシ大(キ)サ
○是程ニシテ産門ニ押(ヲ)シ入(レ)テ一時バカリ置(ヲク)ナリ嬢(クハイ)
胎(タイ)ノ時指(サス)ベカラズ一(ト)サシニテ子ハ腐(クサ)リズンくニ
成リ下ルヅ
○破血(ハケツ)剤ノ叓　香附子 炒 四匁　川芎 一匁　巴豆 一匁　毒ヲトリクロヤキ
右三味末シテ酒ニテ用ユ但シ本味ハ不用(ヒ)

姙ムト血塊ヲヨク見分テ可用妄リニ用ヒテ人ヲ誤マルベカラズ惣テ度々下せバ薬事キカズ必以可慎コレヲ服スルトキハ先本味ヲ以テ下地元氣ヲヨク類生シテ而後右ノ薬ヲ可用ユ

○子ナキ者ニ子ヲ孕マスル事ハ本味バカリ常ニ用ベシ

○極意口上之一味方

黒豆大　干姜中　蕪荑中　右拵ヤウノ事黒豆生炒等分ニ合

シ童便ニ好酒五倍合シ三日浸シ取上ケ日ニ乾ス又如右浸シ干スヿ三度干ツケテ為細末○干姜コシラヘ様ハ寒中ニ七日水ニ浸シ水ヲ日々ニ替ヘ干シ上ゲ皮ヲ去リ刻ミ炒末ス○蕪荑ト云ハ雞ノヒヨコノ夏也コシラヘ様ハ湯ヲヨク煮立テ其湯ノ中ヘ蕪荑ヲ入レ暫ク置キ取上ケ皮ニ毛ヲ去リ陰干ニシテ其後度々干シ虫糞ノ如クニ成ルヲ用ユルヅ　右三品黒豆ヲ漬タル汁ニテ粉ヲ子リ

テ大キニ丸ジ置キコソゲテ用ユルゾ可」秘々々

但シ何レノ加減ニモ中ニ加ヘザレハ不」効也

口上之一味バカリ用ル諸症ノ事○産後フルヒ歯噤テ目旋ルトキ○産後子宮出テ久シキニ卵ノ白ミニテ解キ塗ルベシ○産後心神ウカくトシテ二年モ三年モ不」語ニ○年久シキ赤白帯下ニ諸薬無」効ニ用ルゾ燕炙ノ油トルヿ右煮ル時其汁ヲ器ニ入置ナバ底ニ沉ム也ソノ上澄ヲ捨テ底ノ堅クシテイカノ如クナルヲ能ク水氣ヲ去リテ置ナリ

○山ト云ハ兎ノ孕子ヲ黒焼ニスル也

此ハ産後癩瘡ノ時初中後何ノ薬ニモ少シツヽ加ルゾヌ産前後ニ用ル処アリ口傳

○黒ト云ハ男ノ乱髪ヲ黒焼ニス

此ハ難治ノ癩瘡ニ用ユルゾ大方ノ癩ニハ不」用」但シ山ト

引合テ不レ放用ル也山ノ三ケ一用ヒルゾ又産ニ用ユル妙アリ口傳

○関(セキ)ノ粉薬方　藍葉大六月土用ニ採(トッ)テ陰干(カゲホシ)ニシテ為レ末(マツ)○堂(アサカホ)ノ小キ但シ花ノ不レ咲(サカ)前ニ採(トッ)リ根ヲ去リ為レ末(マツ)○紅花ノ中ノ實ヲ其(ソノ)終末ス右三味合セ付ル塗(ヌル)用ルトイフハ是レナリ

○関ノ一味薬ノ方　藍実新(アラ)シキヲ佳トス葉モ同シ　右一味粉ニシテ用ユルゾ塗(ヌル)リモスルナリ

○関ノ額塗薬ノ方　藍葉大小豆小黒豆少右三味合セテ能(ヨク)ノ末シ雞冠(ケイカン)ノ生血ニテ糊(ノリ)ヲ延(ノベ)テ張(ハ)ルソ又糊ハカリニテモ付ル是レハ塗(ヌル)ルバカリ也

○塗薬秘方　藍実大甘草少右二味合テ末シヌル也

此レハ胞衣(エナ)不下ニ張(ハ)ル又雞産ノ時ニモ又子手足ヲ出シテ不レ入ニモ三ノ推(ズイ)百會ナドニ塗リテヨシ是レ中条秘事口傳

ナリ捻シテ中条流ニハ胞衣不下雞産手足出ス等ニ革麻子ヲ三推百會ニヌリテ紙ニテ張ルトゝヲハ大事也悪シ不用ソ

○香ノ粉薬方　香附子春秋二季ニ採テ白水ニ漫レトリ上ケ又臼ニテ春キ碎キ石臼ニテ粉ニシテ丹ヲ以テ色ヲ付ケ薄茶一服程ツヽ、白湯ニ用

○黄ノ三色薬ノ方　黄栢キザミ一夜酒漫シ生三炒二黒一ト合セ粉ニシテ生姜糊ニテ○程ニ丸シ一度ニ七粒ツヽ白湯ニテ用ユ又散薬モヨシ一度ニ一日ツヽ用ユルソ産前後癇病又虫ニモ用ヒテ吉

○癇病ノ秘方　餅米ノ粉炒リト黒ト二色ニシテ砂糖少右ウス茶一服程ツヽ一日ニ三度白湯ニテモ食ノトリ湯ニテモ可用丸シテモヨシ産前後ニ本味ノ間々ニ用ユ

○同産後ニ用ユル薬　寒中カヽ土用カニ桃ノ花バカリヲ

フルイ生姜ノ汁ニ浸(ヒタ)シ日ニ干(ホ)シツケテ生ト炒ト黒ト三品ヲ一ニ三ト合テ薄(ウス)茶一服程ツヽ一日ニ三度食(メシ)ノトリ湯ニテ用ユ此(コレ)モ本味ノ間々ニ用ルゾ

○痢病丸薬　牡丹皮三色一ニ三ト合シ　山茨菰(サンシユユ)等分合シテ大豆ノ大サニ丸ジ二粒ツヽ一日ニ三度白湯(サユ)ニテ用ユ

○風毒ノ丸薬　蒼朮二両一歩黄柏(キハダ)四両一夜酒ニ浸シ日ニ干シ焦色ニ炒粉(コ)ニス右ニ味大豆ノ大サニ丸シ一度ニ三粒ツヽ生姜湯天目ニ半分ニテ用ヒヨ

○待合付薬ノ秘方　産前後ノ部ニ記ス所ノ療治ニテ不治ハ此薬ヲ可(ベシ)用ユ　羌根皮(キヤウコンピ)　甘松　各等分　右ニ味刻ミ本味トタケクラベニ合シ又大麦ヲ右薬ノ等分ノ分量ニシテ食(メシ)ニタキ少シシルキ程(ホド)ニシテ暖(アタヽ)ナル中ニ此薬ヲカキマゼ一ト合ヲヨクムシ扱(コキ)蕪菁(ブレイ)ノ黒焼ヲ二重ニ可付ツケ汁ニハ蕪菁ノ油ニテモ又卵(タマゴ)ノ

白ミニテモヨシ蓋ニハ何時モウドノ皮ヲ付ル也
○反張ノ灸　口ノすヲ取テ大推ヨリ下ヘアテ届ク所ニ大キニシテ一灸ス但シ産前後反張スルニヨシ又本ヲヘソニ當テトヽク処ヘ居ルモヨシ
○古血ノ灸所ハ起タせテ竹ヲ足ノ指ニハサヽせ腎ヘクラベテソノ真中ニテ切リウシロヘ當テ届ク所ノ背筋ノ正中ニ点ヲ付○是程ニシテ灸救ハ其人ノ氣根次第ス

ベシ扨右ノ竹ノ本ヲ一すト切テ腎ノ正中通リニ當テ左右ヒ一すヒラキ両点シ灸○是程ニシテ救ハ五十壮ウヽスベシ但シ人ニヨルベシ
○腰氣ノ灸　赤白ヒニ吉シ戸渡リノ正中○是程ニシテ三壮スベシ又小便ノ穴ト子宮ノ穴トノ間サ子ノ下ニ指ノハラ程フクレタル所アリ是灸所ナリ

中条流薬方終

濃州乗付流産方

○催生順氣散　枳殻三分　牽牛子一分　甘草少

○順生散　逆子足ヲ出スニ用ユ

灵天蓋（レイテンカイ）小　枳殻中　熊膽小

○横子手足ヲ出スニ用ル方　枳殻中　香附子大　甘草

茶各小

○隨醤（ズイシヤウ）散　胞衣（エナ）ヲ下ス　人参小　枳殻大　莪朮小

○止痛散　アト腹痛ヲ治ス　人参小　枳殻大　莪朮小　以上

板坂流女科

○婦人脾血氣トハ脾寒（ヒヘ）血弱シテ腹痛コレ也

陳皮　青皮　莪朮　丁香皮　干姜　茴香　甘草各二分

木香　縮砂各一分　山梔各二朱　桂心一分　生姜一方香附子アリ

○婦人血分腫氣　當皈圓　芍薬　當皈　人参　桂心

瞿麥各一両　葶藶半両　右末シ蜜丸廿粒米湯下ス

○室女月候行(メグラ)ントシテ先腹痛スルハ是血痛也諸症ヲ不問ハ四物湯ニ莪朮三稜ヲ加ヘ用ユ若(モ)シ大小便結セハ蘓子降氣湯ヲ以テ大便通ス五苓散小便ヲ利ス

○正脾散　莪朮　香附子　茴香　陳皮　甘草各等分

○加減四物湯　四物湯ニ杜仲　桂心　茯苓　甘草　牛膝　人參　防風　獨活各三分　桑螵蛸(ソウヒヤウセウ)二分　細辛二分　秦艽一分　天陰雨(クモハトキ)ニ生姜ヲ加フ

○月水滯腹痛スルニ四物湯ニ當皈赤芍薬ヲ倍(ハイ)シ桂ヲ加フ

○姙婦腹痛或ハ胎動(タイドウ)下血ニ阿膠炒熟艾ヲ四物湯ニ加ヘ用ユ

○命仙湯　腰氣ヲ治ス　人參二分　丁子　茯苓　肉桂　當皈　川芎　芍薬各一分　甘草少　右水煎加減法▲腹コワラバ莪朮ヲ加フ▲腎氣弱(ジンヨハ)キ人ニハ人參ヲ倍ス▲虫氣ニ丁子ヲ加フ▲冬モ同上▲冷(ヒヘ)タル人ニモ同シ▲氣重(ヲモ)キ人ニハ當皈ヲ減ス▲風症ニモ同▲頭痛目重キニ白芷ヲ加フ

▲熱ニ芍薬ヲ加フ

○腸痔多年不愈下血不止ヲ治スル方　木賊　枳殻各二両　干姜一両　大黄一分　右四味一処ニ炒黒色ニシテ末シ米湯ヲ以食前ニ服ス妙ナリ

○瀉血不止ヲ治ス　木賊水煎空心服

○腰氣サシ薬　明巻二分紫且　蕪方　梅干　黒焼各一分　右細末シ絹ニ包ミ五六すバカリ糸ノ緒ヲ付ケ

大キサ　◯　是程ニシテ房内ヘサスベシ　七日ノ間ニ三度薬ヲ嚥ヘヨ

加減法如左ノ

○腹コワラバ腰湯サスベシ　▲腰張リ腹ハルハカラ竹ノ根ヲ煎ジ塩ヲ入レ腰湯サスベシ　▲氣力弱キ人ニハ明巻等分ニスベシ若カラ強キ故ナリ　▲腹張リ痛ムハモムベシ　▲物下ル時ハ柹核霜一分加ヘヨ　▲薬サシテ後腹ハルハ必ス

驗ヲ得ルノ證ナリ ▲ウドンノ様ナル物下ル柿渋ノクサリタル様ナル物下ル又薄赤キ物下ル又フノリヲ解タル様ナル物下ル又不下ヿモアリ不苦内薬ニハ右ニ記ス命仙湯ヲ可用

○同一方　明砦焼　紫根水ニ浸等分　軽粉少

右細末シテ

○コレ程ニ絹ニ包ミ房内ニサスベシ

内薬同前命仙湯ヲ用ユ

板坂流女科終

瀬之尾流産前後方

○産前方　安胎寛氣進食瘦胎易産或ハ胎動胎痛胎漏下血ニハ佛手散或ハ枳殻散ニ此薬ヲ兼用ユベシ

保氣散　香附子四両　山薬二両　縮砂一両　木香四匁　益智　紫蘇　甘草各半両或甘中一両　右水煎又細末シテモ用ユ

○産前風寒ヲ治ス又進食平胃散宜服之　蒼朮五両　厚朴三両　陳皮三両　甘草三分　六味ノ加減茯苓良姜各二両一方除

良姜ヲ加フ人參ヲ産前ニハ厚朴良姜ヲ去ル　八味ノ加減縮砂香附子丁子各二両

加ヘ細末ス或ハ煎服ス脉散ズル時ハ塩湯ニ調ヘ下ス

○産前一切煩ニハ四物湯ニ枳殻ヲ加ヘ用ユ産月常ニ用ユ

○難産逆産ニハ兎頭黒焼一分温湯ニテ服ス但シ胎内ノ子欲スル生時可用若シ早ク服スル時ハ足ヨリ生ル也一服ニテ不生ハ重テ又服ス死胎生レカ子ルニ甚効ヲ得タリ

○胞衣不下ニ　柚実　柚黒焼或陰干ニシテ一分温湯ニテ服スフノリヲ加ヘテ早ク出ニ用ユ

○産前後血上リタルニハ伏龍肝水芭温湯ニテ用ユ

○同風氣ニハ四物湯九文散各半調合服ス

○同血道并産後面腫血上リヲコリサメ有ルニ益母散ニ荊芥二両川芎一両沢蘭三分右水煎又散薬ニテモ用ユ

○同血道并手屓ニハ益母艸二両イノシリ草三両フルセアサ三両童便製黒ヤキ　右細末

○同血道身ノ毛立チ面赤キニ宜シ人参當皈散ニ麦門冬
人参　肉桂　當皈　生地黄　芍薬各等分　右如常煎服ス
○難産或死胎或胞衣不下ニハ當皈　赤芍　川芎各一両
牛膝二両　延胡索一両　右煎服
○産後四物湯ニ地黄ヲ去リ莪朮二分加ヘ用ユ腹痛ノ時
ハ三分加フ寒ニハ干姜ヲ加ヘ血不下ニ桃仁ヲ加ヘヨ惣メ
産後ニハ薬炙ルハ悪シ
疼血留ル何茱モ同シ

○産後黒薬　アト腹血ノ道諸事ニ用ユ　女髪黒ヤキ一両
フルセアサ黒ヤキ一両半　女鹿ノ頭黒ヤキ二両　右酒或ハ湯ニテ用ユ
○産後古血不下ラ胞衣不下ニ四物湯延胡索柚ノ黒焼加ヘ用ユ
○産後血シバリ　又ハ手肩ニ此薬用ル片ハ帯ヲ解キ枕ヲ
高クシテ伏マセテヨシ　人参　沉香各等分　金玉陰干ニシテ鮫ニテ摺
少　葱二寸　味噌少丸ルメテ入　右煎ジ用ユ
○同血シバリ　人参　川芎　黄連各等分　甘草少

右水煎散ニシテ用ル時ハ塩湯ニテ服ス帯ヲ緩メヨ

○産後アト腹ニハ當皈　良姜　芍薬　肉桂　香附子各二分

甘草少又黒神散ヲ用ルモ佳ナリ

○神仙散　産後常ニ用テ佳也　當皈一両　川芎三分　人参一両二分　干姜二分　紅花二分　右細末シテ用ユ又蜜丸ニスル時ハ延命丹ト名ク

○當皈散　婦人百病ヲ治ス兼テ産後腹痛ヲ治ス

當皈半両　芍薬三分　熟地黄三分　蒲黄半両　桂枝一両半　甘草一分

○黒神散　産後胸先ヘ込揚ケフクレ口渇キ目眩譫言眼色黒ク臍腹脹リカタク鼻血悪露不盡胞衣不下腹痛口噤諸疾ヲ治ス　熟地黄　當皈　桂心　芍薬　干姜　蒲黄炒　甘草各四両　黒豆炒去皮ヲ　右細末毎服二目酒半盞童便半盞煎服▲胞衣不下アト腹痛ニ延胡索ヲ加ヘヨ▲熱強クハ柴胡大ヲ加フ

○失笑散　産後心腹痛欲死百葉不効ニ用ヒテ愈ユ又疝氣急引筋欲死ヲ治ス　蒲黄（凡失血ノ者ニハ生ヲ用血ヲ止ルニハ炒ヲ用ユ）　五霊脂（酒水飛メ土砂ヲ去。炒。麻油三五滴入レバ細ニナリ安シ）　右等分細末シテ用ユ又醸醋（キブキス）ニ入熬成膏　又水一盃入レ七分ニ煎シ食前熱服ス

○産後反吐百葉不効ヲ治ス　橘皮　生姜　桔梗

右細末水煎九種阿伽陀圓兼服ス

○呉茱萸湯　産後腹痛ヲ治ス　桔梗　防風　干姜

甘草（炒）　當皈（炒）　細辛（各半両）　呉茱萸（一両）　乾地黄（三分）　右水煎

又末シ用ユ

○産後血暈心氣絶スルヲ治ス　益母（絞汁一匁服ス）

又黒炒童便製ニシテ用ユ

○三稜散　産後悪血不散結聚成塊或ハ時ニ寒熱シ不思飲食ヲ治ス　荊芥　熟地黄　穿山甲（各一両）　桂心　當皈

川芎　牡丹皮　赤芍薬　劉寄奴（各半両）　大黄　桃仁　牛膝

各三分　右粗末毎服三匁紫蘓一匁　生姜三片　水煎七分服之

○万病圓　婦人月侯不来繞臍痛及産後血氣不調腹中生癡結不散又寒疝痛ヲ治ス　乾漆焙煙青白クナルマデイル久キヿ一時ニ至ル　牛膝酒浸一宿各二匁　右細末シ生地黄汁一升入熳火熬梧桐子大ニ丸シ空心米飲又温酒ヲ以テ下ス日ニ二丸病去ラハ葉ヲ止メヨ妄ニ勿加丸ヲ

○車前子散　難産ニ用ユ　車前子炒半両　滑石半両　揄白皮一両　當皈半両　瞿麥炒一両　右末メ二匁酒服

○滑胎散　難産ニ用ユ　揄白皮　牛膝　麻仁各一両　瞿麥　木通各三分　右末メ酒服

○牛膝散　胞衣不下ニ用ユ　牛膝酒浸　葵子各三両　揄白皮　瞿麥各二両　生地黄一両　右末メ酒服

○産後中風并ニ氣ノ滞リ或ハ多年小便血下リ八味順氣散ニヨロシ　人参　白朮　茯苓　青皮　白芷　陳皮

烏茱　當皈各等分　生姜三片　右水煎一方有甘中一分

○産後徧身針ニテ如刺痛ムハ血風也又寒熱往来昼靜ニ夜劇シク妄言譫語シ鬼神ノ狀ヲナスハ熱血室ニ入ル也四物湯柴胡ヲ加ヘ用ユ不退ハ小柴胡湯ニ生地黄三両ヲ加フ又後発熱渾身拘急せバ四物湯　参皈湯前ニ出　逍遥散或ハ牡丹皮　山梔子炒加ヘ用ユ

瀬尾流産方終

予嘗撰中条家産書小冊令書肆某氏梓焉其書大行于世而猶憾其多遺漏再探櫝中撰切日用者数十条與之欲以小補於産科者流云爾

村山林益撰

附録

夢生之説　物理小識以此為悶寂生

彭用光體仁彙編曰婦已產生下孩兒但
不能發聲謂之夢生庸俗不知此理遂棄
而不救極為可憫凡有此切不可斷臍
帶將胞衣火燒灸令火氣入孩兒之腹內
兒身已煖爺取貓一隻青衣包裹其頭足
令乖覚婦人拿住用貓頭在兒耳邊卻
以手捉住貓頭婦人以口齒著力咬破貓
耳貓遂大叫一聲孩兒即醒開口發聲能
省眼開遂得長生矣又物理小識曰兒生
墮不啼擊木瓢迫貓令叫即啼中通曰俗
稱不啼兒為悶寂生旁人呼其父應兒即
啼

斯二說雖難信以諸方書所無而識者
幾希故姑附録于此且為和解以示童

蒙吁世之妄醫見孩兒生下身冷眼合不發声不動四肢皆以為死胎遂棄而置之度外可不嘆乎若夫兒身稍冷未至於骨節強直者即用此法或甦矣有其任者不可不知也

夢生之說和解

體仁彙編ニ曰ク凡子生下テ初声ヲ揚ザルヲ夢生トニフ素人醫者コレヲ活スル支ヲ不知死胎トナシテ棄ル者多シ若シホウセイノ子ヲラバ必ス先ツ臍ノ帶ヲキラズ直ニ胞衣ヲ火ニテ得ト炙リ其温リ子ノ腹ノ内へ入レバ身モソコデ温カニ成ナリ扨又猫一隻ヲトラヘ藍染ノ絹ニテ頭モ足モイクヲモ能ク包ミ身ヲ働キ人ヲカヽヌヤウニシテ氣ジヤウナル女ニ両手ニ

テ持せ猫ノ頭ヲ子ノ耳ニトクト押アテ齒ニテ猫ノ耳ヲ力一パイ咬切バカリニ咬スレバ猫ハ痛ニ忍カ子大声アゲテ叫トヒトシク子ハ其マヽ氣付テ口ヲ開キ声ヲアゲ目ヲ開キ長ク別条ナシ 此下物理小識ノ和解畧ス

・和解讀者ヨク合点シテ其ノ事ノ成ヤスキヲ本トス故ニ其意ハ本文ト違ハズトイヘ圧其詞ニ於テハ増減スルモノ多シ

安永七年戊戌十一月發行

醫療手引草 上編 中編 下編 全部二冊

同續編 上中下三編各二冊 全部二冊

同別錄 全部二冊

張氏醫通纂要 全部五冊

治痢經驗 内經金匱ニモトツキ治論ヲアゲテ本邦名古屋丹水子北山友松子等ノ治例方考ヲ弁明シ痢ヲ治スルノ方ヲ詳ニス

和漢人參考 全部一冊

稲若水ノ論并ニ韓人ニ會シ諸參ヲ正セシ筆語圖錄韓

参唐参和参ノ品類悉ク真偽ヲ弁明シタル書ナリ
右合冊ニシテ安永四未年校正発行

衆方規矩方解大成

全部二冊

本邦良医賢達ノシタシク病人ニアタヘ治療ヲナシ覚ヘタル薬方ノ的不的ニ甚深ノ妙理アルコヲ口受シテ筆記シ置シタル考解今日療治ノ目的トスベキ書ナリ

醫療衆方規矩大成

全部一冊

副　古方後世方経験之九散湿毒二切経験良方

此書ハ烏巣道人著述ニアラズトイヘ共引草ノ中ニ往々参考スベキヨシヲ記ス療用深理ノ書ナリ又近世用イラル九散方ノ効験著明ナルヲ捜リ求テ是ヲ記シ附スルニ梅瘡ノ治方諸名家ニ秘セラル薬方下疳便毒或ハ古湿トナリテ百方治セザルモ是ヲ用イテ治シ得タル湿毒一切ノ療治経験ノ良方ヲ載ス

刪補錦嚢外療秘錄

全部三冊

腫物ヲ悉ク圖ニアラハレ治方膏薬ヲ詳ニ記ス附スルニ下疳便毒五痔梅瘡濕毒一切ノ治方ヲノス

本艸弁明

全部一冊

菜ノ能毒製法真偽等近年国手ノ説ニ乱レ簡便ニ書ス一

痘疹方論

全部二冊

錦嚢妙藥　明王蒙蘭著

全部一冊

單方古方疾病沉痾ヲイヤスコ神ノ如ク的中ナル方ヲ撰集

小兒活法　錢陽良醫松下元真著　全部一冊

小兒療治本　并秘方ヲ輯錄ス

增補燈下集　啓迪院道三先生治療ヲナシ効驗著明ナル某方ヲ撰ミ用イ方加減法詳ニ記セラル、書

刪補方要　好生子著　全部五冊

良醫好生子世ニ行ル、回春等ノ雜駁ノ書ニテ治療ヲ誤ルヲ歎シ仲景ノ方ニモトヅキ輯メタラサルニ後世トイヘド考究シテ是ヲ撰ミ病門ヲ百廿二分チ二千有余カヲ附ス和漢名醫ノ方考治論ヲノス本邦醫道盛ンニ良醫多アリン時代ニ撰レテ專ラ世ニ用イラレシ補瀉ノ偏見ナク古方後世方ヲ療治甚深理ナル書ナリ故アリテ書林ノ庫藏ニ納メテ世ニ流布セズ今茲先生ノ撿閱ヲ得テ題名ヲ改メ発行ス

博物筌　全七冊　合巻一冊

此書ハ医書ニアラズトイヘド天地ノ間ニアラユルコトモノサズいろは分ニシテ其理ヲアキラメ知ル掌中ノモノノ見ル如シ医道ニモ便リナキニアラズ或ハ方葉妙術又コレヲノス

白澤圖　全一枚

黄帝ノ時出テ此圖ヲ家ニ掛ケ置ケバ諸ノ災ヲノゾキ其家厄病流行病ヲウケズ其外祥瑞多キ靈獣コレ聖人ノ傳ル所ニシテ委ク右ノ圖ニシレルス

大坂　書舗　心斎橋南四丁目　吉文字屋市兵衛

